

種目【国語】

書名 項目	<h1>新編 新しい国語</h1>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 2 東 書 </div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各領域の学習の中で「知識及び技能」に示された事項について必要に応じて取り立てて学習する場面を設けている。 ○学習の基盤として習得すべき知識や技能を「おさえる」と明示している。 ○仮名や漢字の読み書き、児童がつまずきやすく習得に課題のある事項について練習教材が設けられている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○单元ごとに、「つかむ」では、学習の見通しを持たせ、「ふり返る」では、気をつけたこと、できるようになったことを確認させるという学習の進め方の構成になっている。さらに、育成すべき「言葉の力」を明確にしている。 ○言葉の力として、单元冒頭と单元末に示すことで、どんな力を身に付けるかがわかる。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の冒頭に年間の学習を見通して自らのめあてを明らかにする場面、学年末に年間の学習をふり返る場面を設けている。 ○「話す・聞く」「書く」の单元では、スピーチや作文の例が提示してあり、参考にできる。 <p><言語感覚を養うための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話す・聞く」「書く」「読む」の单元で「言葉の力」を明示し、螺旋的・反復的な学習を通じて言葉の力を積み上げ児童の言葉による見方・考え方を豊かにしている。 <p><読書に親しむ態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○单元の学習に関わる本を紹介した「こんな本もいっしょに」のほか、随所に読書活動に関わる内容を位置づけている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○单元ごと一番最初のページに小さくイラストや写真が入っている。 ○説明文（3年生）では、児童に身近である、ほけんだよりを入れている。 ○单元に合わせて、淡い、濃いイラストになっている。写真もイラストも美しい。 ○脚注の新出漢字には水色で囲みがしてある。前学年で習った漢字の学習では、確認テスト形式になっていて、答えが巻末に示されている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○目次の次に「国語の学習の進め方」が示してあり、各单元で使われている「言葉の力」「つながる」などのコーナーの色や内容の説明がある。 ○各单元冒頭ページに单元のねらいと言語活動が明記されている。 ○脚注罫線に、1行ごとに点を示したり、手書き文字に近い書体を使ったり、すべての児童に見分けやすい配色を使ったりしている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的な学習を通して、学習の重点となる「言葉の力」が着実に積み重ねられるよう配列されている。既習事項との関連を示す「つながる」や他教科や実生活に活用できるよう「ひろがる」欄を設けている。「日本のしらべ」や「日本の言の葉」を設け、優れた言語文化への理解と愛着、豊かな言語感覚を養うようになっている。 ○5・6年生も上下巻。（重さの軽減、新しい教科書に出会う喜び、ゆとりをもった紙面） 	

種目【国語】

書名 項目	みんなと学ぶ 小学校国語	11 学 区
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○語句や漢字、言葉の意味については「言葉のいずみ」、語法や文法、日本語の使い方については「言葉のきまり」として取り立てて教材化し、段階的に学習が進められるようにしている。 ○教材どうしを関連させ連続させた単元配列にすることで、必要な技能を押さえさせている。 ○長く語り継がれていた昔話や俳句・慣用句・短歌・ことわざ・文語詩・漢詩・狂言などを取り上げ、美しい言葉の響きやリズム、昔の見方・考え方に触れられるようにしている。 ○「学習の手引き」に絵の並び替えや書き込み表作りなどがあり、ワーク的要素が見られた。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「話す・聞く・話し合う」活動を系統的に位置づけ、年間2～3カ所の単元を中心に、小教材を適宜設定し、主体的に話したり、聞いたり、話し合ったりする力を養えるようにしている。 ○言語活動の中で図化・表化・イメージマップなどの思考・表現方法を学び、情報を視覚的に表して思考を整理させるようにしている。 ○2年生以上の「季節のたより」では、写真の掲載や四季折々の言葉の説明があり、それらを元に表現活動につなげている。 (言葉をカードにする、経験を詩にする、感じたことを俳句や短歌にする等) </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○学年の最初に、その学年で付けたい力を一覧で示し、1年間の学習を見通せるようにしている。学年末に1年間の学習をふり返り、達成感をもたせ、今後の学びへの意欲付けをしている。 ○巻末に「授業で使う言葉」の解説があり、学びを深める一助となっている。 </p> <p> <言語感覚を養うための工夫> ○各学年1カ所、言葉の美しい響きやリズムを声に出して味わえる教材を設定し、昔から現在へ受け継がれてきた言語文化に親しむことができるようにしている。 ○「言葉で遊ぼう」では、長く親しまれている早口言葉などの言葉遊びを取り上げ、楽しみながら言葉の豊かさに気づけるようにしている。 </p> <p> <読書に親しむ態度を育成するための工夫> ○読書単元を中心に作品を楽しみ、味わいながらおもしろさに気づき、豊かな読書生活へつながるように、本との出会いの場が様々な場所に設けられている。また、主体的な情報の活用ができるようにその方法を学び、他教科でも使える知識や技能を身に付けられるように、学びの積み上げに配慮した配列になっている。 </p>	
資 料	<p> ○巻頭詩が見開きで、関連するカラー写真が全体にあり興味を引く。 ○絵や写真と文章とを対応させて読む教材を設定し、絵や写真から読み取ったことを元に活動を行うよう工夫している。 ○文章の内容をまとめたり、考えを整理・形成したりするときに活用できるよう適宜、表やイメージマップなどを配置している。 ○点字の凹凸を再現した資料ページを設け、実際に触れて理解を深める工夫をしている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○漢字の未習・既習を厳密に適用した表記では、熟語の場合、読みにくさをまねくこともあるため、上位学年の漢字が含まれる熟語もルビをふって適宜漢字を使用している。 ○表記・表現は全学年にわたって統一し、正しい表記が身に付くように配慮している。 ○単語や文節が行をまたぐことがないように改行位置が調節されている。 </p>	
総 括	<p> ○各単元において、学び方や目標達成のための手順が示されており、学び方を学びながら活用力と豊かな心を育てる構成になっている。各巻末に「保護者の方へ」のページを設け、児童が今、学校で何を学んでいるか、教科の時間でどんな力を付けようとしているのかをまとめていて、把握しやすくしている。 ○巻末に日本と外国の文化の違いに触れる話が掲載されていた。また、手話で話す友だちの話もあり、人権感覚を養う視点も見られた。 ○5・6年生も上下巻。(重さの軽減、新しい教科書に出会う喜び、ゆとりをもった紙面) ○色と模様の組み合わせを揃えて見やすくしている。 </p>	

種目【国語】

書名 項目	ひろがる言葉 小学国語	17 教 出
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <p>○「読むこと」教材の手引きが、①たしかめよう、②考えよう、③深めよう、④広げよう、の4ステップ構造になっており、学習の進め方が明確である。また、それぞれの学習過程に対応して、「自分の考えを形成するための観点」が示されていて、確実に知識・技能が習得できるように工夫されている。</p> <p>○子供たちが、必要な情報を取り出し、情報どうしの関係を整理できるように、「ここが大事」や「大事な言い方」などでポイントとなる語彙や文型を取り上げている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○「話すこと・聞くこと」では、話し合いや発表・報告、ディベートなど、「書くこと」では日記・手紙・報告文・ポスター・意見文など、様々な言語活動が示されており、日常の場面で生きて働く言葉の力を養うことができるよう工夫されている。</p> <p>○思考を整理したり、まとめたり、可視化したりするための付箋やノートの使い方など、学習のツールを多く例示している。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○「読むこと」教材の手引きが、子供一人でも学べるように、大きな字で詳しく書かれている。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、スピーチや作文の例が提示してあり、参考にしながら活動を進めることができる。</p> <p><言語感覚を養うための工夫></p> <p>○伝統的な言語文化が多く取り上げられている。低学年では言葉遊びや昔話など、中学年では日常生活の中から慣用語や短歌など、高学年では古文・漢文、伝統芸能などである。</p> <p>○「漢字のひろば」では、ワークのように書き込むことができる。</p> <p>○4年生では、社会科と関連して「都道府県名に用いる漢字」が掲載されている。</p> <p><読書に親しむ態度を育てるための工夫></p> <p>○「本を読もう」のコーナーが随所に設けられている。「読むこと」の単元では関連した図書の紹介が、また付録では様々なジャンルの図書が紹介されており、子供たちが興味をもちやすいように工夫されている。</p> <p>○読書カードの作り方や、記録の残し方、感想の書き方など、学年に応じて紹介されている。</p>	
資 料	<p>○挿絵や図表の色づかいがやさしく、見やすい。</p> <p>○学習効果を高めるための補助資料が多く掲載されている。</p> <p>○2年生の「カード作り」では、用紙が付録としてついている。</p>	
表 記 ・ 表 現	<p>○ユニバーサルデザインを意識した読みやすい字体を用いている。</p> <p>○熟語などの表記は上学年の漢字をルビ付きで使用し、不自然な交ぜ書きを避けている。</p>	
総 括	<p>○確かな学力を育むための工夫が随所に見られる。学習の進め方が明確で、子供が主体的に学ぶことができる。また、多様で活発な言語活動が示されており、それらの活動を繰り返していく中で、様々な国語の力が身に付くように構成されている。</p> <p>○伝統的な言語文化や漢字、読書指導についても楽しく学習できるように工夫されている。</p> <p>○5・6年生も上下巻。(重さの軽減、新しい教科書に出会う喜び、ゆとりをもった紙面)</p>	

種目【国語】

項目	書名 国 語	3 8 光 村
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学びを確かめ、次につなげる工夫として、単元の最後のページに「たいせつ」と「いかそう」が示されている。特に、「いかそう」では、他教科や日常生活に活用する視点が示されている。 ○各単元に、身に付けたい力を「たいせつ」欄に箇条書きで整理されている。 ○「話すこと・聞くこと」の単元では、どの指導事項に重点を置くのかが明示されており、児童にも分かるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の学びが一覧できる「学習」のページに、学習の流れ（とらえよう、ふかめよう、まとめよう、ひろげよう）が提示されており、自ら、どのように学習に取り組みばよいかわかるようになっている。 ○「情報」のコーナーを多く設定し、情報を的確に理解し、表現につなげたり自分の考えの形成にいかしたりしていけるように2～6年生まで、系統立ててある。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「国語の学びを見わたそう」では、前学年の学びと一年間に学習することを見渡すことができる。 ○「ふりかえろう」では、新しい3つの評価の観点に沿った自己評価ができるようになっている。 ○「二次元コード」によるデジタル資料（教科書に対応した動画や学習の参考となる資料）が全年掲載されており、児童の主體的な学びに活用できるようになっている。 <p><言語感覚を養うための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「季節の言葉」が、年4回設定されており、季節を感じる言葉や詩歌を色彩豊かな挿絵とともに掲載されている。また、写真や絵などが充実しており、伝統文化に親しんだり、豊かな言語感覚を養ったりするように工夫されている。 ○2年生以上の各巻巻末に、「言葉のたから箱」が設定されている。そこでは、その学年に応じた語彙を提示しており、語彙を系統立てて、増やしていけるように工夫されている。 <p><読書に親しむ態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○読書に親しむ工夫として、全学年、読書単元が年間2カ所、設定されている。本を紹介するための「この本、読もう」や巻末付録「本のせかいを広げよう」では、表紙写真を掲載し、子供たちの興味・関心を高められる工夫がされている。また、本を読んだ後の記録の仕方など、学年に応じて、提示されている。また、「本の世界を広げよう」というコーナーでは、子供たちが手に取りやすいものを選定されており、学校図書館を積極的に利用していけるように工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の選定が前回と比べ、大幅に変更されている。文学的作品等は、継続されている。 ○1～4年生は上下巻。5・6年生は、学年1冊になっている。中学校入学時の環境の変化に適應するための配慮がされている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○配色や罫線を取り入れた紙面の構成など、配慮されている。 ○教科書体で表記されており、書き文字に近く、正しい字形を意識しながら学習することができる。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○語彙を増やす工夫や情報を読み取り、考える力を育てる工夫など、各学年に応じた内容を系統立てて設定されている。 ○「単元扉」が新設され、児童が学習の目的をもって学習に取り組めるようになった。 ○「読むこと」の単元では、学習の手引きが、「学習課題」と「言語活動の手順や観点」の2段階で構成されており、学習の流れが明確になっている。 	

種目【書写】

書名 項目	<h1>新しい書写</h1>	$\frac{2}{\text{東 書}}$
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○書写の原理・原則を発見させてから、「書写のかぎ」で原理・原則を整理できるように工夫されている。 ○「書写のかぎ」を設け、単元名にも学習事項を端的に示すことで、学習のねらいが明確化・焦点化されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○自分や友達の書いたものについて、よくなったところを伝え合う場を設け、友達と学び合うことを写真やイラストで示し、個の学習にとどまらず、協同的に学ぶことを促している。 ○「見つけよう」で書写の原理・原則を一般化し、「確かめよう」で書いて確認し、さらに、「生かそう」で、他の文字にも応用できるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「書写のかぎ」では、学習内容のキーワードを自ら書き込めるよう、ワークシート様式である。また、俳句や古文漢詩など、なぞり学習のページや学習に関わる熟語の書き込み欄もあり、学習したことの定着を図ることができる。 ○冒頭に、1年間の学習を見通すページが設定されている他、2～6学年では「書写の学び方」を図や写真で示している。学習過程が図解されており、自ら学ぶ手引きとなっている。</p> <p><毛筆と硬筆との関連> ○硬筆文字から書写の原理・原則を発見し、課題を共有させる。毛筆で確認し、硬筆で別の文字を書くことで定着を図るように構成されている。 ○1・2年生の巻末付録として、水書用紙が添付されており、全員が学習しやすい環境整備に配慮されている。1・2年生で、運筆能力の向上が図られ、硬筆での適切な書字動作が身につくことができるように工夫されている。</p> <p><各教科や日常生活との関わり> ○国語をはじめ、関連する教科には関連マークが示されており、意欲付けが図られている。 ○生活に広げ、活用できるように、発達段階にそった身近な内容を取り上げている。 ○「生活に広げよう」では、他教科の学習や季節の行事に合わせて書写を活用する場面が紹介されている。書写で学習したことを生活に活用できる書写力を養うことができる。</p>	
資 料	<p>○教科横断的に取り組む教育課題（情報教育、キャリア教育、環境教育、国際理解・グローバル教育、防災・安全教育、オリンピック・パラリンピック教育）を多岐にわたり取り上げている。 ○デジタルコンテンツを提供し、片付けや運筆などの映像を確認することができる。 ○挿絵や写真等、多く用いられており、興味をもって学習できるように工夫されている。 ○巻末付録として、年間を通して学んだこと「書写のかぎ」が分かりやすくまとめられている。 ○6年生の巻末に、「漢字からひらがなができるまで」が表示してある。ローマ字表は、英語教科書で使われる幅の4線で表記されている。</p>	
表 記 ・ 表 現	<p>○B判のワイドな紙面で図版を大きくしてある。 ○手書きの硬筆文字の筆づかいの字形に準拠し、教科書体を使用、「書写のかぎ」は、UD書体を使用している。 ○文意を理解しやすいように、文節で改行してある。</p>	
総 括	<p>○落ち着いたレイアウトや色づかいである。イラストやキャラクターが学習内容を妨げないよう配慮されている。 ○情報が整理されており、字の大きさも工夫され、大切な説明は詳しく表記されている。 ○毛筆教材の左側に学習事項のインデックスが設けられている。</p>	

種目【書写】

書名 項目	みんなと学ぶ 小学校 書写	1 1 学 区
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習過程が〔①たしかめて書こう②考えて書こう③生かして書こう→ふり返ろう〕の3つの「書く」ステップで学習する構成になっている。児童がどのような学び方で、自分がどれくらい理解しているかが見える工夫がされている。 ○めあては、キーワードを色で網掛けし、児童が何を学ぶか気づきやすくなっている。 ○生活の中でも意識的に、正しい姿勢や筆記用具の持ち方が定着するように、大きな写真やイラストで詳しく説明している。 ○低学年のみ、学ぶところに付ける「書き方のかぎシール」が、課題の発見を助けるものとなっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○習得した書写の技能を、学習の場、生活の場において用いることができるように、「はがき」「封筒」「国語教材で練習」などの書いて実感できる教材を多数掲載している。 ○文字を整えて書くための基礎・基本やその技能の活用法、理解を深める様々な資料において「何を学ぶか」という目標が明確にわかり、児童が学習の見通しを立てて取り組める。 ○「ふり返ろう」の欄では、発展的ななげかけ「～を使った言葉を書きましょう。」「交わっているところ、接しているところに○をつけよう。」など、文字を書くポイントを提示してある。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「かきぞめをしよう」など、古来より我が国にある伝統文化や技法に関わる資料、文学教材などを多く導入している。 ○児童が好むキャラクターが多く登場し、学習場面での疑問や気づきなどが示されている。 ○「書き方のかぎ」「ふり返ろう」で、マークをつけ、児童自ら学べるように工夫されている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○小筆で書く3年の学習では、自分の学年と名前を題材にしている。 ○毛筆で運筆練習をしてから、「生かして書く」場面で硬筆を取り上げている。 <p><各教科や日常生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○習得した技能をさまざまな文字や生活の場面で活用し、効果的に書く姿勢を養えるように、習得の実感を伴うふり返りや、活用の可能性や児童の創造性を広げるさまざまな資料を掲載している。 ○「ふり返ろう」で、好きな俳句を選んで書いたり、都道府県を硬筆で書いたり、他教科との関わりのある教材となっている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○文字に関わる様々な資料を全学年に豊富に掲載している。(書写の資料館) ○興味関心をもって主体的に取り組めるように、様々なコラムを掲載している。(なぜ?なに?書写の不思議) 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○初めて練習する漢字は、ページ下部に読みと筆順を示している。 ○硬筆の教材文字と書き込み欄については、上下に配置することで、利き腕を問わず教材文字が隠れずに練習できるようになっている。 ○多様な色覚特性に配慮し、だれも見やすい淡い配色になっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○書き込み欄が多く、教科書とワークシート一体型のようなものである。全ての復習・まとめの単元を、書いて確かめられる構成に統一しており、1冊で1年間の学習の成果を振り返ることができるよさがある。学習過程が明確で児童が主体的に学習できる。学習のかぎで書けるようになるための見方や考え方を確かめて、試し書きの文字と比較することで習得の実感を伴うふり返りができるようになっている。 	

種目【書写】

書名 項目	<h1>小学 書写</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学年に「学習の進め方」で、児童の習字例や活動写真例を示すことで、自分の課題を解決していくための具体的な方法がわかり、意欲的・主体的に学習することができる。 ○「めあて」→「ためし書き」→「考えよう」→「ここが大切」→「まとめ書き」→「生かそう」→「ふり返ろう」までの流れがわかりやすい構成になっている。 ○ほぼすべての毛筆の教材において、朱墨と薄墨を使った図版を掲載している。 ○各学年、鉛筆の持ち方、筆の持ち方が巻頭に2段階に掲載されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○身につけた書写力が、学校生活や学習活動の「どの場面」で生かせるのかが、イラストなどですぐわかるように構成されている。 ○学習内容が理解しやすいノートのまとめ方の例として、国語ノートを題材にすることで、普段の学習に生かせる。 ○「はってん」コラムで該当する学年より上の指導事項を示すことで、これから学習する内容の見通しをもち、接続を図ることができる。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年間の学習をふり返り、4月に書いた文字と比べて変容を確かめるコーナーを設けている。 ○国語で学習した古典や文学教材を書写で視写することで、内容をより深く味わうとともに、豊かな言語感覚を養うことができる。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛筆で運筆練習をしてから、硬筆を取り上げている。 <p><各教科や日常生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「書いて伝え合おう」では、全学年に発達段階にふさわしい手紙やはがきの書き方がある。低学年では、書いて伝え合う楽しさを実感できる題材と場面を設定している。 ○書き初めの行事を通して、日本の伝統と文化への関心が高められるようになっている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○1学年に水書用紙が付いている。 ○障害のある人が描いた作品（障害者アート）を掲載している。 ○裏表紙に、全学年鉛筆の持ち方の図版や写真が取り上げられて、いつでも確認できるようになっている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○色覚等の特性をふまえた判読しやすい配色やレイアウト、表現方法、文字等の工夫により、すべての児童にとって学びやすいように配慮されている。 ○使用する色数を絞ることで、文字に注目できる、落ち着いたレイアウトになっている。 ○朱墨や墨の濃淡で、筆運びや穂先の位置が分かりやすく表記されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容や手順が明確に示され、児童が主体的に学習できるような構成になっている。また、基礎・基本の確実な習得の上で、他の学習や日常生活に活用できる力の育成を考慮している。各学年の硬筆教材は、国語との関連を考え、国語の教科書から取り上げている。全学年において、裏表紙に、鉛筆・筆の持ち方の写真を取り上げて、いつでも確認できるようになっている。 	

種目【書写】

書名 項目	<h1>書写</h1>	38 光村
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1・2年生は、鉛筆の持ち方、姿勢に重点を置いている。(鉛筆の持ち方の見開きページ、途中に友だちと持ち方を見合うページがある、姿勢の写真と絵による合い言葉) ○各学年の巻頭に、書くときの姿勢・筆の持ち方などが分かり易く、見やすく説明されている。 ○低学年では、なぞり書きや空書きなど、身体で覚える教材を多く設けている。 ○毛筆の送筆や力のいれ具合が、朱墨と混ざったお手本で分かりやすい。 ○6年生では、「書写ブック」が付録としてあり、6年間で学習する内容が1冊にまとめてあり、中学校との接続を図ることができるように配慮されている。 ○3年生には、動物の体で示された始筆・送筆・終筆シールが付録としてあり、初めての毛筆として楽しみながら、ポイントを押しえ易くしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題解決型学習を想定して構成されている。課題発見から解決までのプロセスを通して書写の原理・原則を学び取れるように工夫されている。 ○学習の進め方が3～6年生で冒頭に提示されている。(□考えよう ㊦たしかめよう ㊧生かそう) <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛筆学習のまとめの単元では、めあてを各自に立てさせ、学習したことを意識して書く取組が設定されている。 ○5年生の新聞の書き方を文字の配列、色等2種カラーで提示し、児童が違いの良さに気づき、主体的に話し合えるように工夫されている。 ○ペアやグループで話し合う写真が提示されている。 ○「漢字図鑑」を全学年に位置づけ、「文字のおもしろさ」を伝えている。(低学年は象形文字、中学年は指事文字・会意文字、高学年は会意文字・形声文字) <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛筆を扱う際に、教材文字と同じ学習要素をもつ硬筆課題を教材内や「硬筆のまとめ」に設けられており、毛筆で学習したことが硬筆に生きるようになっている。 <p><各教科や日常生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○横書きや英語の書き方など他教科でも書写の学びが生かせるように工夫されている。(1年生は生活の観察ノートや算数の数字や式、3年生は社会で横書きの題材、5年生は英語で名刺作り) ○国語教科書と連動できる教材を、各学年二つ設定されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生に水筆用紙が付録として付いている。 ○運筆、リズムなどの身体的、感覚的な学習内容を、イラストや図、擬態語で説明している。 ○3年生の毛筆の準備と片付けが見開きで示され、写真資料数が多すぎず、児童が理解するために適切である。 ○5年生で「平仮名・片仮名」と「ローマ字表」を一覧で示すことで、興味・関心をもって学習できるように工夫されている。 ○「二次元コード」が掲載されており、手の動かし方や紙や墨、硯ができるまで等の資料が映像で確認したり学んだりしたりできる。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○書写体操を導入し、身体を使って書く技能教材であることを意識づけている。 ○どちらの書き方がよいか等、よりよい字形を考えさせる場が多い。 ○単元名、たいせつ、ふりかえりはUD書体を使用し、色は色覚の多様性に配慮し、誰もが識別できる配色が採用されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各教材が、問題解決型学習を想定した構成となっていて、その過程で学ぶことで思考力・判断力等を養えるよう配慮されている。 ○毛筆の手本右上に朱墨の手本、左下に硬筆の文字が小さく載せてあり、教材文字目に入るように余白を十分取っており、集中しやすく配慮されている。 ○基礎・基本の定着を図るために、2年生以上の全教材に「たいせつ」を設け、ポイントを整理したり自己評価したりできるようにしている。 	

種目【書写】

書名 項目	<h1>小学書写</h1>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 1 1 6 日 文 </div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の主教材は、一つ一つの教材を「①考える→②確かめる→③いかす」の段階をふみながら学習できるように、学習過程を明確にしている。 ○書写の基礎・基本である姿勢・持ち方は、大きな写真を用い、ポイントを明示することにより、子供自身がいつでも確認できるように工夫されている。 ○各教材は、めあてと自己評価欄が示されており、達成感が味わえるように工夫されている。 ○学習指導要領で示されている各学年の指導事項が単元名になっており、学習のめあてが明確になっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○主教材で学習したことを、副教材で他の文字を使って確かめ生かす構成になっている。 ○メモを取るとき、作文を書くときなど、様々な学習プロセスの中で書写力を活用する場面を想定して、教材が設定されている。 ○最終単元は、一年間を振り返り、学習したことを生かしながら取り組むことができるよう、教材が工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習過程が明確で、児童自身が学習を主体的に進められるように工夫されている。 ○書き込み欄が設けられており、主体的に学習が進められるようになっている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○副教材は、毛筆学習で習得した書写力を硬筆に生かすための、硬筆の関連学習が充実している。 <p><各教科や日常生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「国語の広場」や「生活と書写」のコーナーでは、日常生活や他教科で、書写で学習したことを活用できるような工夫がある。 ○古典や文学作品を、書き写す教材が設けられており、伝統文化に親しむことができる。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○「言葉の窓」「国語の広場」「生活と書写」などのコーナーが設けられている。筆や墨、硯などの資料や、文字の成り立ちに関する資料が提示してあり、書写に興味をもてるようにしている。 ○1・2年生の教科書巻末に、水書用紙を貼付した「水書きシート」がある。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○隣り合う色同士が識別しにくい可能性がある部分は、色の明度に変化をつけたり、白い線を間に挟んだりするなどの工夫がある。 ○色分けによる示し方だけでなく、補助線や矢印の形状・太さにも配慮して、情報を区別できるようにしている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○原理・原則を学び、他の文字で確かめ、言葉や文に生かすというように学習過程が明確であるため、児童が主体的に学ぶことができる。また、書写の力を確実に身に付けることができる。 ○様々な書く場面を想定して教材が作られているため、学んだことを日常生活に生かす力を育むことができる。また、書写に親しむコーナーもあり、楽しく学習できる工夫がなされている。 	

種目【社会科】

書名 項目	<h1>新しい社会</h1>	2 東書
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習上重要なキーワードを「ことば」として明示し、学習や生活の基盤となる言葉を抽出し、学習内容の確実な習得に役立てようとしている。 ○随所に「まなび方コーナー」を設け、「見る・聞く・ふれる」「読み取る」「表す・伝える」場面に応じた学び方を具体的に提示し、学習技能を系統的に習得できるようにしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「社会的な見方・考え方」が一目で分かるよう、キャラクターのイラストの種類を目じるしとした囲みを提示している。「空間」「時間」「相互関係」の3つの視点と方法（「考え方」）で囲みを変え、どのような視点や方法を働かせればよいか、明確に分かるようになっている。 ○「まとめる」場面では、文書でまとめる、発表する、話し合うなどの言語活動を重視し、習得した知識を定着させ、思考力・判断力・表現力を育成できるようにしている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の最初に「社会科の学習の進め方」が明記され、主体的に楽しく学ぶことができる。学習問題をつくった後の「調べる」段階で、対話的な学びを様々な場面で提示するなど、見通しをもって学習が進められるようになっている。 ○社会に生きる人々の姿が多数掲載されており、多様な人の生き方にふれ、共感的に学ぶことで、地域社会の一員として自分のこれからの生き方について考えることができるようになっている。 <p><学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○單元ごとに「めあて」、小単元の「学習問題」、本時の「めあて」が明示されている。更に、見開き側注欄の本時の「めあて」に学習段階（つかむ、調べる、まとめる、いかす）が目立つ形で示されており、問題解決的な学習を促している。 ○「主体的・対話的で深い学び」を進めていくことができるよう、話し合いの場を重視し、イラストを適所で示している。また、まとめる場面では、学習してきたことを振り返ったうえで学習問題を解決する過程を分かりやすく示し、深い学びにつながるようになっている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○活用できる写真や資料が数多く掲載されており、児童が興味をもって学習に取り組むことができるようになっている。学年の学習内容に応じて、今日的な課題について積極的に取り上げている。 ○地図帳が3学年から使用されることを踏まえ、「地図帳を使おう」の特設ページがあり、地球儀に関する「学び方コーナー」と併せ、効果的に地図帳・地球儀が使用できるよう提示している。 ○「教科関連マーク」により、関連する他教科の学習内容が示されている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○児童キャラクターが案内役として、社会的な事象の見方・考え方をアドバイスしている。 ○当該学年以上の配当漢字にはふりがなを付している。筆写の文字に近く読みやすい専用教科書体とゴシック体をバランスよく使い分けている。 ○保存会の人々や役場の人の話など、実際に取材した人の話を随所に設け、様々な仕事に関わる人の姿を取り上げ、共感的に社会に生きる姿に学ぶことができる。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決的な学習を教科書に沿って行えるようになっており、それぞれの学習段階が明確に示されているので、どの段階かを意識して学習に取り組めるようになっている。また、児童が主体的・意欲的に取り組みたくなるよう、写真やイラストなどの資料が見開きで多数掲載されている。 ○キャラクターを活用して、「社会的な見方・考え方」を「空間」「時間」「相互関係」の3つの視点と「方法」（考え方）に分けて提示し、深い学びにつなげることができるようになっている。 	

種目【社会科】

項目	書名 <h1>小学社会</h1>	17 教出
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題解決に活用すべき知識や概念が「キーワード」として明示されており、必要に応じて解説が記され、児童が理解しやすいようにしている。 ○問題を解決していく上で必要な学習技能を「学びのてびき」として紹介している。技能を活用して「社会的な見方・考え方」を働かせた学習の意識化が図れるようにしている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の巻頭には、「社会科の見方や考え方」の視点や方法を例示したコーナーを特設して意識づけを図るとともに、巻頭以外にも視点や方法をていねいに示唆した児童キャラクターの吹き出しが随所にある。 ○「まとめる」のページには、マトリクス表や関係図（ウェビング図）、ダイヤモンドグラム等の思考ツールが例示されており、思考したことを整理したり表現したりしやすくしている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「社会科の学習の進め方」として「つかむ」「調べる」「まとめる」「次の学習や暮らしにつなげる」のモデル図が示され、問題解決的な学習を見通しをもって進めることができる。また、第3学年巻末の「わくわく！社会科ガイド」では、様々な学び方が示されている。 ○人口減少など社会に見られる課題を多く取り上げたり、社会に参画している人々の姿を臨場感豊かに紹介したりして、社会の一員としての自覚を高められるようにしている。 <p>＜学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題解決的な学習を進める上で必要な「問い」が各単元、時間ごとに設定されている。このことを通じて、児童は一貫して問題解決的な学習を進めることができるようになっている。 ○多くの単元で「学習問題をつくり、学習の見通しをたてよう」という見開きのページを設け、予想、調べること、調べ方、まとめ方など、学習計画を立てる場面を丁寧に例示している。 ○「次につなげよう」というコーナーが1時間分の最後に記されており、本時に出た新たな問いが、次時につながるように意識された構成になっている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○昔と今を意識した（時間の推移に伴う変化を読み取らせようとする）資料が多く、その変容から疑問にもたせ、学習課題につながるようにする意図がうかがえる。 ○「わくわく！社会科ガイド」等で、地図帳・地球儀の使い方を詳しく説明している。 ○学校や地域の実態に応じて、選択して活用できる多様な内容の教材が設けられている。また、生活科との接続や、道徳、総合的な学習の時間等等と教科との関連が図られている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○キャラクターの吹き出しに、社会的な見方・考え方の視点が明示されている。 ○本文にはUDデジタル教科書体を、それ以外にもユニバーサルデザインフォントを使用しており、読みやすい。凡例も、色の区別だけでなく形の区別もあり、区別しやすい配慮が見られる。 ○ユニバーサルデザインによる多様性への配慮を行っている。様々な人々との共生への理解を深める観点から、パラリンアートとして、障がいのある方が描いた作品を教科書に掲載している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「問い」からの問題解決的な学習の流れが明確で、児童の「問い」を引き出す効果的な資料が配置されている。見開きで「この時間の問い」と「次につなげよう」が繰り返し一貫して示され、思考の流れに沿って主体的・意欲的に学べるように工夫されている。 ○子どものイラストと吹き出しが多く、「見方・考え方」の視点をアドバイスしている。また、まとめたりふり返ったりする際の書き出し等のヒントも多数あり、考える視点が明確である。 	

種目【社会科】

項目	書名 小学社会	1 1 6 国文
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○その単元を学ぶ上で不可欠な社会科用語を「キーワード」として説明している。文章だけではなくイラスト等も合わせて記載することで、視覚的にも理解が深まるように工夫している。 ○「学び方・調べ方コーナー」では、「見る・調べる」「読み取る」「表現する」の3項目に分けて提示されており、観察力や表現力育成の一助となり、系統的に資料活用の技能を習得できる。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会的事象の見方・考え方を働かせて学習の問題を追究・解決する手だてとなる「見方・考え方コーナー」において、「空間」「時間」「関係」の3つを項目として、調べ考えるための視点や方法をこのコーナーで示し、社会的事象の見方・考え方が養われるようにしている。 ○単元末のこれまでの学習を振り返る場面や「さらに考えたい問題」では、学習問題についてみんなで考えを話し合い、自分事として考えを深めている様子がイラストなどで例示されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の巻頭に「社会科の学習でたいせつなこと」を示したり、「この教科書の使い方」で学び方を明記したりして主体的に学習することができる。基本的に1時間1見開きのページで構成され、問題解決的な学習の過程が分かりやすく示され、見通しをもって進めることができる。 ○各単元の終末に「わたしたちの学びを生かそう」が設けられており、多様な教材が例示され、社会の一員としての自覚や伝統・文化などを大切にしようとする態度を高めるようにしている。 <p><学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元が「わたしの問題」(一人ひとりの素朴な疑問) → 「学習問題」(集団で話し合いたい課題) → 「さらに考えたい問題」(学習問題の解決後に出た新たな問題) 順に展開しており、集団で解決していくことで、個の見方・考え方が高次化していく過程を意識した構成になっている。 ○交流場面(主に対話的な学び)について、適宜、イラストで例示されており、追究していく中で、個が集団と学び合いながら問題を解決していく具体的な場面が設定されている。これまでの学習を振り返ることにより、学習したことを深められるように工夫している。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○児童にとって身近に感じられる、地域の特色を生かした地域教材を取り上げている。また、「わたしたちの学びを生かそう」には、社会の新たな取組、社会的問題の資料が多く掲載されている。 ○3・4年の巻末「地図帳の使い方」「地図となかよしになろう」が設定され、地図帳の活用を促している。また、5年で地球儀や地図帳の具体的な活用方法が示されている。 ○生活科や道徳科など他教科とのつながり、中学校との接続も意識した資料構成となっている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○「わたしの問題」本文「友だちの発言」など、キャラクターが主体的な学びを促している。 ○当該学年以上の配当漢字にはすべてにふりがなをつけ、文字は読みやすい教科書体を使用している。またすべての児童が等しく学べるよう、カラーバリアフリー、UDなどを採用している。 ○基本的に見開きのページに学習対象についての情報や資料、学習過程がまとめられていて、学習がスムーズに進むように紙面が工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりの素朴な疑問である「わたしの問題」からみんなで追究したい「学習問題」をつかみ、追究後に「さらに考えたい問題」へと繋がっていく構成になっており、問題解決的な学習過程が分かりやすく示され、見通しをもって学習することができる。 ○学習問題に対するまとめの段階において、イラストを用いて話し合いを常に意識させて学習を深めさせる工夫がされている。また、各単元の「キーワード」が学習内容の定着の助けとなっている。 	

種目【地図】

項目	書名 新しい地図帳	2 東書
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <p>○「地図帳の使い方」として地図記号、索引、方位、縮尺、地形表現、土地利用といった基本的な地図の読み方を丁寧に解説したり、地球儀の活用の仕方を分かりやすく説明したりしている。鳥瞰図→真上からの図→地図という視点の転換から地図を理解し、活用する力が身に付くよう、工夫している。また、日本の領土・領域が実感をもって理解することができるよう、用語の説明や国土の統計を掲載するとともに、すべての地図において海洋部分も詳細に描写している。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○各地域の拡大図を適宜設けて、位置関係や地域相互の結びつきを調べたり、比較をしたりするなどの多面的な学習が展開できるようになっている。「資料地図・統計表」には各種の統計資料が豊富に示され、特に、日本の歴史を学びながら、同じ時代の世界の様子が捉えられるようにしている。また、国旗の取り扱いや防災、安全教育など、今日的課題への対応に関わるものが数多くあり、社会的な見方・考え方を身につけられるように工夫している。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○冒頭のイラストマップでは、世界と日本の様々な事物を紹介し、児童の「地図帳で調べてみたい」という意欲を喚起し、親しみをもてるようにしている。また、多彩なキャラクターを随所に配置し、地図活用の手がかりを児童の言葉で吹き出しを使って提示し、一緒に学習できるようにしている。使用頻度の高い「さくいん」は十分なページ（10ページ）をとり、行間をあけて見やすくなっている。更にチェック欄が設けられており、調べたり活用したりした都道府県や主な名所・史跡などが分かり、主体的に学習できるように工夫されている。</p> <p><地図・資料の特徴></p> <p>○広い視野から国土を眺めることができる地図を複数配置し、日本の位置及び範囲、領土に関する問題、自然災害と防災などについて正確な理解が図れるようにしている。また、土地の高さによる色分けに加え、住宅地や商業地、田や畑、果樹園、工業地などの色分けがなされ、人々のくらしが読み取れるようになっている。資料においては、日本の歴史に関する内容の充実をはかったり、郷土愛を育む視点から、各地の伝統工芸品や名産品などを数多く取り上げたりしている。</p>	
資 料	<p>○主な歴史の舞台・建物（青い枠囲み）、世界遺産、環境問題に関わるラムサール条約や世界ジオパークの登録地などについて、個別の記号を設けている。</p> <p>○教育のICT化への対応として、インターネットを利用して学習ができるよう、Dマークを記載し、学習への興味・関心を高めるとともに家庭学習でも活用できるようにしている。</p> <p>○他教科との関連として、道徳、食育の他、国語、音楽の学習に役立つ人物の記載もされている。</p>	
表 記 ・ 表 現	<p>○地図中の文字や記号は大きく、字体（フォント）も丸ゴシック系のユニバーサルデザイン書体で見やすく、重要な語句や文字には、文字のまわりに色が付けられなど工夫されている。</p> <p>○明るくっきりとした色遣いで、図や写真の説明文などは全て文節改行となっていて、読みやすくなるような配慮がなされ、反射を抑えた目に優しい用紙を使用している。</p> <p>○土地利用の様子や高さ、深さの地形表現は丁寧に色分けされて表現されている。</p>	
総 括	<p>○A4の判型を生かして、文字や資料が大きく、広い範囲を表示している。また、ユニバーサルデザインに配慮した色遣い、反射を抑えた用紙で見やすくなっている。ほぼ全てのページに多彩なキャラクターを登場させ、地図活用の手がかりを分かりやすく提示している。3年生からの使用を踏まえ、「地図学習」のページで地図の仕組みや約束事を分かりやすく解説している。索引にチェック欄を設けたり、日本の歴史や伝統・文化の資料の充実を図ったり等の工夫が見られる。</p>	

種目【地図】

書名 項目	新しく学ぶ小学生の地図帳	46 帝国
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○3年生からの使用に対応し「地図のやくそく」「地図帳の使い方」など、地図帳を正しく使いこなすための技能について、丁寧に大きく扱っている(12ページ分)。方位、地図記号、距離の求め方、凡例、索引、縮尺等地図の基本的な概念を分かりやすく説明している。また、日本の領土とそのまわりの地図とともに、領域に関する模式図のほか、日本固有の領土及び東西南北端の写真と説明を掲載し、日本の領域を正しく理解できるようにしている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「地図マスターへの道」のコーナーが随所に設けられており、必要な地図帳活用の技能のほか、位置や空間的な広がりなどの「社会的な見方・考え方」が身につくようになっている。「自動車産業のさかんな愛知県」の地図は、30万分の1の縮尺で大きく見やすくなっている。また、自動車の関連工場が分かりやすく記号化されていたり、出荷の流れが矢印で表現されていたりするなど、自動車生産の流れについて思考しやすいような地図になっている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○資料図が用意されており、各国や県の様子がグラフや表をもとに分かりやすく整理されている。日本と外国の結びつきなど、日常生活に関係の深い事例が提示されており、児童が興味をもって学習に取り組むことができるようになっている。索引では、地名の前に、地名の種類を表す記号が示され、調べやすいものとなっている。また、47都道府県の名前と位置クイズが掲載されており、児童が意欲的に学習できるように工夫されている。 </p> <p> <地図・資料の特徴> ○京都府や奈良県、東京都は5万分の1の詳細な地図を用意するなど事前学習に活用することができ、分かりやすい作りとなっている。また主要な建物などがイラストとして紹介され、児童が楽しみながら理解しやすい地図帳となっている。各地方の地図のページのなかにも、「国際化が進む福岡市」「広島市の様子」「洪水への備え」など、学習内容に直結する地図がクローズアップされて取り上げられている。資料においては、自然や産業の様子その他、日本で起きた過去の災害や災害を防ぐ工夫など、防災・減災への理解を深める事例を数多く掲載している。 </p>	
資 料	<p> ○産業記号の他、文化・歴史の記号として世界文化遺産、環境の記号として世界自然遺産、世界ジオパークやラムサール条約の登録地、貴重な動植物など、個別の記号を設けている。 </p> <p> ○資料活用能力を高める機能として、タブレットパソコンなどで読み込める二次元コードを設置し、クイズや地図、統計などの様々なコンテンツで学習を深めることができる。 </p> <p> ○外国語、国語、算数、理科、音楽など、社会科だけでなく、他教科での学習に活用できる。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○重要な地名、語句は大きくしたり、縁取りをしたりして記載されており、読みやすい地図帳である。見開きが多く、児童が調べ学習を行うのに最適である。 </p> <p> ○標高による色の違いが鮮明に表現されている。特に、山地・山脈の高低差や山の尾根の形がより立体的に表現されている。 </p> <p> ○ユニバーサルデザインフォントを使用し、大きく、すっきりとして読みやすいデザインである。 </p>	
総 括	<p> ○地図の色遣いが鮮やかで、山地の影の部分や間に生えている木の表現等も細かく、視覚的にも親しみやすい地図になっている。また、イラストが数多く掲載されていたり、「地図マスターへの道」のコーナーが随所に設けられていたり、児童が興味をもち主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。冒頭12ページを割いて掲載されている「地図のやくそく」「地図帳の使い方」についての説明が丁寧で、地図に関する基礎・基本を身に付けることができる。 </p>	

種目【算数科】

項目	書名 <h1 style="text-align: center;">新しい算数</h1>	2 東書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な概念や性質、技能を身に付け、それらの意味や原理などを理解できるよう配慮されている。 ○単元末に、「たしかめよう」が設けられ、理解や技能の定着を図るための問題が設定されている。また、巻末の「ふりかえりコーナー」で、前学年までの復習内容が分かりやすくまとめてある。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程で特に働かせたい数学的な見方・考え方に共通のマークを用いることで、学習のより重要な見方・考え方をとらえやすくしている。 ○2年生以上で、「今日の深い学び」を設定し、解決の見通しをもち論理的に考え判断した過程や結果を数学的に表現し伝え合う学習ができるようにしている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末の「新しい算数+（プラス）」で、児童が自主的に発展的な学習や補充学習できるようにしている。また、他教科との関連が深い単元や教材については、マークを用いて関連を明示し、教科横断的な学習が効果的にできるようにしている。 <p>＜数学的活動を充実させるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を、キャラクターの吹き出しや補助発問によって問題解決ができるように工夫されている。 ○遊びの中で、数量や図形に着目した経験や培った感覚、興味・関心を想起させ、対話を通して、算数の学習につなげていく数学的活動を積極的に取り組めるように工夫されている。 ○単元の導入では、身の回りの事象について対話を通して学習内容と日常生活の関連を強調し、単元末の「いかしてみよう」では、学習したことを日常生活に生かし問題を解決できるように工夫されている。 ○巻頭の「学習のとびら」において「友だちと学ぼう」という対話的な学習方法を明記している。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な日常事象や、社会や自然の事象が絵と写真で取り上げられている。 ○全学年に数学的活動に用いるページが設けられ、切り取って使用する教具にミシン目が入っている。 ○巻頭にノートの手書きの例や問題解決的学習の取り組み方が示され、巻末に学習に必要な既習内容がまとめられている。 ○「Dマーク」でインターネットを使用した画像や動画が用意されていて、ICTを活用し、視覚的に理解できるようにしてある。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○新出の用語や記号、単位が太字で書かれ、読み方や書き順が示されている。 ○定義・公式、計算の仕方等は、色付けしたり、囲んだりすることによって、強調されている。 ○数学的な見方・考え方やヒントは、キャラクターの吹き出しや囲み等で示されている。 ○各時間の課題・めあてが、下線で強調されている。 ○全学年のすべての文章において、文節の切れ目で改行を行い、読みやすくしている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○数学的に考える資質・能力を身に付け活躍できる人を育てるという方針の下、算数の「内容」を学ぶ過程で、「数学的な見方・考え方」を育む構成になっており、この見方・考え方の可視化を意識した紙面になっている。 ○入門期の児童の学びを意識したA4判中綴じの紙面や、小中の接続を意識した振り返りが設けられており、数学的な見方・考え方を育成・発展させることが意識されている。 	

種目【算数科】

書名 項目	<h1 style="font-size: 2em;">たのしい算数</h1>	4 大日本
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○毎時の適用問題が適量確保され、基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、定着できるようになっている。また、「プラス・ワン」という補充問題も巻末にあり、解答も用意され自分でも取り組めるようにしている。 ○「〇年までのまとめ」が新設され、知識・技能を振り返ることができるように工夫されている。 ○学習したことを生活にも生かすように促す「おうちで算数」が新設されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○多くの単元に「じっくり学び合おう！」を設定し、解決の方法が言葉で説明されたり、図や式等と結び付けて考えたりする活動が取り入れられている。 ○本時のまとめには、考え方に焦点を当てた「発見！考え方」が掲載されるとともに、いろいろな場面で使える数学的な見方・考え方がひらめきアイテムとして示されている。 ○「読み取る力をのばそう」という特設問題があり、活用する力や表現力などを養うようにしている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○巻頭の「算数ナビ」では、算数の学習の進め方が明示され、学習を発展的に広げ、生活や他教科に生かす態度が育つように工夫されている。 ○学習の途中や単元末の「おうちで算数」「ふくろう先生のなるほど算数教室」「算数たまたまばこ」「読み取る力をのばそう」等では、学習した内容を具体的な生活場面で確かめたり、発展的な学習に活用したりできるように工夫されている。 </p> <p> <数学的活動を充実させるための工夫> ○児童の興味・関心を引き出すような問題や解決の必要感をもたせる課題を設定し、数学的活動を通して考える楽しさや解決できた喜びを味わえるようにしてある。 ○日常生活に関連した題材や、学習したことを生活の中で活用する問題が採用されている。児童の興味・関心を喚起させる必要感をもたせた課題を設定し、数学的活動を通して考える楽しさやできた喜びを感じることができるよう配慮されている。 ○「じっくり深く学び合おう」として、単元の中で特によく考えて、話し合いながら学習する場面を設定している。 </p>	
資 料	<p> ○身近な日常事象や、社会や自然の事象が絵と写真で取り上げられている。 ○全学年に数学的活動に用いるページが設けられ、切り取って使用する教具にミシン目が入っている。 ○巻頭にノートの手書きの例や問題解決的学習の取り組み方が示され、巻末に学習に必要な既習内容がまとめられている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○新出の用語や記号、単位が太字で書かれ、読み方や書き順が示されている。 ○定義・公式、計算の仕方等は、色付けしたり、囲んだりすることによって、強調されている。 ○数学的な見方・考え方やヒントは、キャラクターの吹き出しや囲み等で示されている。 ○各時間の課題・めあては共通のマークで強調されている。 </p>	
総 括	<p> ○考え方に焦点を当てた「発見！考え方」を設定し、知識・技能的なまとめと、考え方に焦点を当てたまとめに分けた構成になっている。 ○各学年1冊の構成で、使いやすさを意図した紙面構成になっている。また、全体が「巻頭」「本編」「巻末」の3部構成で、かつ学習の「めあて」や「まとめ」の充実が意識されている。 </p>	

種目【算数科】

項目	書名 みんなと学ぶ小学校算数	11 学☒
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「～したいな」というマークの横に小タイトルをつけ、これから身に付ける知識・技能を明示している。また、「はかせ」では新出の用語や重要な項目を、「まとめ」では身につけた知識・技能や考え方を確認し、基礎・基本の学力が身につけられるようにしてある。 ○単元末問題が「できるようになったこと」「まなびを生かそう」の2つに分かれていて、身につける知識・技能とそれを生かす問題に取り組めるようになっている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「①考える力」「②判断する力」「③表す力」を、算数を通して育てたい三つの学びの力として、2～6学年の上巻の冒頭にまとめられている。 ○既習事項を基に解決の方法を考えたり、答えの見積もりをしたりすることができるよう、吹き出しが活用できる構成になっている。また、特に重要だと考えられる数学的な見方・考え方を「モンスター」で表し、場面に応じて例示されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の途中や単元末の「深めよう」「まなびをいかそう」「なるほど算数」「活動!!」「アクティブ!!」「ふりかえろう つなげよう」等では、学習内容を活用したり発展的な学習に取り組んだりできるように工夫されている。 ○「みんなの町の算数」を設定し、身の回りの建物や事象などを算数の目で見られるように工夫している。 <p>＜数学的活動を充実させるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題発見からスタートし、「知りたいな、考えたいな、工夫したいな」等、算数の問題として考えていけるような学習の流れにしたり、数学的活動の手立てとなる考え方を「モンスター」で例示したりと、工夫されている。 ○巻頭において主体的な学び、対話的な学び、深い学びの「3つの学び方」という学習の進め方が明記されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な日常事象や、社会や自然の事象が絵と写真で取り上げられている。 ○全学年に数学的活動に用いるページが設けられ、切り取って使用する教具にミシン目が入っている。 ○横長AB判の測注を利用して学習の進め方等を示している。 ○QRコードが随所にあり、インターネット上のコンテンツに接続して、学習できる。 	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○新出の用語や記号、単位が太字で書かれ、読み方や書き順が示されている。 ○定義・公式、計算の仕方等は、色付けしたり、囲んだりすることによって、強調されている。 ○数学的な見方・考え方やヒントは、キャラクターの吹き出しや囲み等で示されている。 ○全ページにおいて文を読みやすい位置で改行し、読み取りのつまずきをなくすようにしている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○紙面が横長AB判となり、教科書上で作業しやすくなっている。 ○教科書の左側に思考の流れ、右側には見方・考え方が示してある紙面の構成になっている。 ○各学年の巻頭では、「3つの学びの力を育てよう」が設定されており、思考力、判断力、表現力等の具体的な力が示されている。 	

種目【算数科】

書名 項目	<h1>小学算数</h1>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">17 教出</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○児童のつまづきへの支援をする「考えるヒント」や「よくあるまちがい」を紙面上に示している。 ○基礎・基本を定着させるために毎時の学習から単元のまとめ、家庭学習への学びのサイクルを意識した構成になっている。 ○知識・技能を学年を超えてつなげる「学びのマップ」や「学びの手引き」が設定されている。 ○単元末の「まとめ」では、「知識」「技能」「見方・考え方」に分けて学習内容を確認できるようにしている。「振り返ろう」では、基礎・基本となる「知識」を簡潔に整理している。「たしかめよう」では、「技能」の習得を確認している。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○問題、発見の過程を「はてな→なるほど→だったら」の吹き出しに示し、児童の「問い」の連続で学習を進められるように工夫されている。 ○働かせた数学的な見方・考え方を振り返ることで、そのよさを見いだせるように構成されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○多くの単元末には、学んだ算数を活用する活動を取り入れられている。 ○巻頭の「学びの手引き」では、問題解決の楽しさを味わいながら、児童が算数の学習の進め方・学び方を身に付けられるように工夫されている。 ○学習の途中や単元末の「学んだことを使おう」「算数ワールド」「算数を使って考えよう」「広がる算数」「身のまわりの算数」「算数ミニクイズ」等では、学習を広げたり、実生活との関わりに触れたりして、知的好奇心を高められるように工夫されている。 </p> <p> <数学的活動を充実させるための工夫> ○身近な題材から算数の問題を見だし、「はてな」「なるほど」「だったら」と問いの連続で授業を展開し、目的意識をもって数学的活動に取り組めるように工夫されている。 ○巻頭の「学習の進め方」において、「みんなで話し合う」の場面が設定されている。「学びを深める大切な言葉」として、対話を促す観点が明記されている。 ○単元導入の「きっかけ」ページでは、身近な場面から問題を発見し、算数の問題としてモデル化し、目的意識をもって数学的活動に取り組めるように工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○身近な日常事象や社会や自然の事象が絵と写真で取り上げられている。 ○全学年に数学的活動に用いるページが設けられ、切り取って使用する教具にミシン目が入っている。 ○巻頭にノートの手書きの例や問題解決的活動の取り組み方が示され、巻末に学習に必要な既習内容がまとめられている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○新出の用語や記号・単位が太文字で書かれ、読み方や書き順が示されている。 ○定義・公式、計算の仕方等は、色付けしたり、囲んだりすることによって強調されている。 ○数学的な見方・考え方やヒントはキャラクターの吹き出しや囲み等で示されている。 ○各時間の課題・めあては囲みで強調されている。 </p>	
総 括	<p> ○児童の疑問や問いを重視し、それらを協働的に解決し、さらに新たな問いに向かう「問いの連続」を意識できる構成になっている。 ○「算数のミカタ」で各領域の数学的な見方・考え方を顕在し、「算数で使いたい考え方」で各学年で生かしたい数学的な考え方が示されている。また、「見方・考え方」では4コマ漫画で振り返ることができるようにしている。 </p>	

種目【算数科】

項目	書名 わくわく 算数	61 啓林館
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○学年に応じてスモールステップで展開されている。 ○巻末には2段階のレベルの「もっと練習」が設けられ、習熟度別学習など実態に応じて柔軟に補充できるよう設定している。 ○各学期に「復習」が設定され、習熟が必要な計算問題は前の学年に遡って取り上げられている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○算数・数学で大切となる類比、帰納、演繹の考え方がそれぞれ「にている」「きまり」「もどる」のロゴを付けて示され、巻末にはそれらを「算数でよく使う考え方」としてまとめ、活用できるように工夫されている。 ○演算決定に関わる図を系統的に学ぶことができるようにされている。 ○巻末の「算数資料集」において、考えをわかりやすく説明するための話型が整理し、まとめられている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○巻頭の「学習の進め方」「わくわく算数学習」では、算数の学び方が明示されており、児童が学習に取り組みやすくなるように工夫されている。 ○単元末や巻末の「学びをいかそう」「算数ラボ」「算数の自由研究」「わくわく算数ひろば」「みらいへのつばさ」「やってみよう」「さがしてみよう」等では、日常生活に算数の学習を活用できるように工夫されている。</p> <p><数学的活動を充実させるための工夫> ○生活や学習での経験や具体的な操作を通して生まれた疑問を算数の問題とし、「学びのめばえ」を示して、めあてにつながる活動をうながすよう工夫されている。 ○「わくわく算数ひろば」「みらいへのつばさ」「やってみよう」「さがしてみよう」では、算数と日常生活との関わりを実感しながら学習が進められるように工夫されている。 ○思考の助けとなる式、図、表などが例示されるとともに、考え方とその解決に至る過程を説明する活動や判断のよりどころについて話し合う活動などを取り入れられている。</p>	
資 料	<p>○身近な日常事象や社会や自然の事象が絵と写真で取り上げられている。 ○全学年に数学的活動に用いるページが設けられ、切り取って使用する教具にミシン目が入っている。 ○巻頭にノート書き方の例や問題解決的活動の取り組み方が示され、巻末に学習に必要な既習内容がまとめられている。 ○巻末に「算数資料集」を設け、児童が問題を解決するのに必要な情報で説明の仕方がまとめられており、個に応じた学びが実現できるように工夫されている。</p>	
表 記 ・ 表 現	<p>○新出の用語や記号・単位が太文字で書かれ、読み方や書き順が示されている。 ○定義・公式、計算の仕方等は、色付けしたり、囲んだりすることによって強調されている。 ○数学的な見方・考え方やヒントはキャラクターの吹き出しや囲み等で示されている。 ○各時間の課題・めあてはマークで強調されている。 ○実際の授業を想定し、授業の区切りがページの途中にこないように配慮されている。</p>	
総 括	<p>○毎時間のめあてを例示し、そのめあてにつながる子どもたちの主体的な考えや気づきを「学びのめばえ」のマークで強調している。 ○他者と考えを共有し、よりよい解決へと高め合う協働的な学びを重視した紙面となっている。 ○学習を連続させたり、日常生活とつなげたりすることによって「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくり」を意識した構成となっている。</p>	

種目【算数科】

項目	書名 <h1 style="text-align: center;">小学算数</h1>	116 日文
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元前に既習事項を確かめるプロローグとして「次の学習のために」が、また、巻末に既習の学習内容を確認する「〇〇までに学習したこと」が設けられている。 ○巻末の「しっかりチェック」で繰り返し練習することで、基礎的な知識や技能の習熟・定着が図れるように工夫されている。 ○つまずきやすい内容が含まれる単元には「わかっているかな？」を設けている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な解決の検討や数学的な表現の相互関連を意図した構成をしている。 ○数学的な見方・考え方を働かせる際の手がかりとして「カギマーク」で具体的に示している。 ○巻頭の「算数ノートをつくらう」において、「学び合い」という項目をつくり、友達のよい考えや方法を書くように促している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末の「学び方ガイド」で算数の学び方を示し、児童が話し合ったり、学習を振り返ったりすることができるように工夫されている。 ○学習の途中や単元末の「活用」「ハロー！算数」「なるほど算数」、巻末の「算数アドベンチャー」「ぐっとチャレンジ」「もっとジャンプ」等では、発展的な学習に取り組んだり、日常生活と結びつけて考えたりすることができるように工夫されている。 <p><数学的活動を充実させるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校生活に関するイラストから算数の問題を見いだしたり、お話作りをしたりする活動を取り入れている。 ○問題解決の過程において、「学び合おう」の場面があり、考えの伝え合いを促すよう設定されている。 ○解決する手段として図を効果的に活用できるよう、系統的に整理し繰り返し図を用いて学習ができるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な日常事象や社会や自然の事象が絵と写真で取り上げられている。 ○全学年に数学的活動に用いるページが設けられ、切り取って使用する教具にミシン目が入っている。 ○巻頭にノートの書き方の例や問題解決的活動の取り組み方が示され、巻末に学習に必要な既習内容がまとめられている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○新出の用語や記号・単位が太文字で書かれ、読み方や書き順が示されている。 ○定義・公式、計算の仕方等は、色付けしたり、囲んだりすることによって強調されている。 ○数学的な見方・考え方やヒントはキャラクターの吹き出しや囲み等で示されている。 ○各時間の課題・めあてはマークで強調されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な力の確実な定着を重視し、くり返し考えたり、確認したりするページを設け、算数が苦手な児童が使いやすい教科書を意識した構成になっている。 ○「①どんな問題かな」「②考えよう」「③学び合おう」「④ふり返ろう」という学習過程から、筋道立てて考え、伝え合うように構成し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指している。 	

種目【理科】

書名 項目	<h1>新しい理科</h1>	2 東 書
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元末の「確かめよう」の問題では、観察、実験の知識を活用した問題が複数用意され、児童に考える力をつけることが配慮されている。 ○単元のはじめと終わりに、それぞれ「学ぶ前のわたし」と「学んだ後のわたし」があり、児童が学んだことによる知識の定着の確認と、自己の変容を感じられるような工夫がある。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○考察の場面では、対話活動を意識したイラストと会話例が示され、話し合い活動をスムーズにできるように工夫されている。 ○観察、実験では、理科の見方・考え方をもって取り組めるよう配慮がされている。「学びをつなごう」では、前学年までの学習内容を効率よく振り返り、学習したこととの関連性を理解できるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○発展的な内容や学習したことに関連する内容が豊富に取り上げられ、理科に対する有用性を感じやすくなっている。 ○防災教育、環境教育、道徳教育、キャリア教育等との幅広い観点を考慮した編集が工夫されている。学習内容を提示する前に、見開きで大きな資料とともに児童の疑問を引き出す問いかけがされ、児童の主体性を学習に生かせる工夫がされている。 <p><見通しをもって観察、実験を行うための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に理科の学び方のページがあり、問題解決の課程がわかりやすくまとめられ、学習に見通しをもって取り組むことが取り上げられている。 ○「理科のミカタ」では、課題を解決していくうえでの重要な視点が示され、児童が観察、実験をするときに何に注目し、何を考えたらいいかが端的に示されている。 <p><自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「理科のひろば」では、学習したことと関連する事物・事象が紹介されている。身の回りのものを科学的に捉えて考えることができる工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○写真やイラストが豊富で、視覚的にわかりやすい。 ○学びを深める問題と、活用問題、学んだ後の私、理科のミカタなど、児童に考えさせる資料が多い。 ○巻末に、学習内容に関連した器具の使い方、教材、学習のまとめがある。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○問題文は、大きく太字で記されている。 ○まとめは箇条書きで示され、学習したことを理解しやすい。 ○実験、考察、まとめでは、囲いや背景の色が統一されている 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○写真が大きく鮮明で資料性が高い。問題解決の過程を意識した作りで、学習の導入からまとめまで一貫した流れができています。 ○偉人の紹介や日常生活と関わり、児童の変容、理科の見方・考え方を深める内容など、配慮が細かい。 	

種目【理科】

書名 項目	<h1>たのしい理科</h1>	4 大日本
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○観察、実験では、手順が1ページおよび見開きで示されていて見やすい。手順を正しく理解し、観察、実験を正確に行えるように工夫されている。 ○「確かめよう」の後に「学んだことを生かそう」があり、知識の確認後、スムーズに知識を活用した問題に取り組める工夫がある。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○考察や結論だけでなく、問題解決の過程のいろいろな場面に話し合い活動を入れている。予想と計画を児童に対話的活動で考えさせ、それに従って実験を進めるなどの工夫がある。 ○学習場面の提示が何々について「話し合いましょう」と対話を前提とした作りになっていて対話的活動に取り組みやすい工夫がある。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○言語能力の育成、環境教育、道徳教育、キャリア教育、科学技術、外国語などとの関連を図り、現代的な諸課題への興味、関心を高める工夫がある。 </p> <p> <見通しをもって観察、実験を行うための工夫> ○導入では、既習内容を示し児童が今までの学習と関連付けながら疑問をもてるように配慮されている。 ○学習過程ごとに統一した色わけがされていて、児童が視覚でも把握しやすい構成となっている。 ○巻頭に理科の学び方のページがあり、問題解決の過程がわかりやすくまとめられ、学習に見通しをもって取り組むことが取り上げられている。 </p> <p> <自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫> ○考察や結論だけでなく、問題解決の過程のいろいろな場面に話し合い活動を入れている。予想と計画を児童に対話的活動で考えさせ、それに従って観察、実験を進めるなどの工夫がある。 </p>	
資 料	<p> ○巻末にチャレンジ問題がある。 ○巻末に次の学年で学習することのガイダンスがある。 ○1年間で学習したことを記入式でまとめてある。 </p>	
表 記 表 現	<p> ○文字の太さや下線だけでなく、文字の背景色も統一されているなどの工夫がある。 ○キャラクターによる問題提起や観察、実験のまとめが多い ○重要な用語は太字で示されている。 </p>	
総 括	<p> ○観察、実験と結果の色分けや、写真やイラスト多さなど、児童が視覚的に理解できるよう工夫がされている。 ○学習活動では、対話的活動が問題解決の過程に無理なく配置されている。 ○多岐の分野にまたがる多くの資料もある。 ○視覚的にわかりやすく、理科の内容項目だけでなく、児童が身につけるべき力をバランスよく配置している。 </p>	

種目【理科】

書名 項目	みんなと学ぶ 小学校理科	1 1 学 図
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○各単元末に知識の振り返りと活用問題が設けられており、確かな知識の定着が工夫されている。 ○観察・実験の適切な位置と巻末には、実験器具の使い方などの技能の他に学習に必要な技能についても記載している。一連の作業を細かなステップに分解し、一つ一つチェックしながら児童が学習できるよう工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○これまでの学びをもとに、予想や考察を行ったり、学習と身の回りの出来事をつなげて考えたりできるよう構成されている。 ○学習したことを応用して考えたり、身の回りの事象に適用して説明したりする場面が設けられ、思考力・判断力・表現力の育成が図れるような場面が工夫されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○問題解決の流れがページの左にバーで示されている。そのページが問題解決のどの部分に当たるのかが明示されており、児童が主体的に学習できるよう工夫されている。 ○観察、実験の後や、単元末での振り返り、あるいは生命尊重などを意識した箇所にマークを配置し、継続して意識することができるよう工夫されている。 </p> <p> <見通しをもって観察、実験をおこなうための工夫> ○冒頭に問題解決の過程を8つのステップで示している。それが学習の流れにつながるよう構成されていることで学習の流れが明確になり、見通しをもって学習できるよう工夫されている。 ○導入で単元の学習の流れが提示されている。また、児童が「やってみたい、知りたい。」と興味をもつような導入が提示されており、見通しと意欲をもって学習できるよう工夫されている。 </p> <p> <自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫> ○問題解決の各場面や活動では、キャラクター同士の対話などから児童の考えを引き出すように工夫されている。考察では、考える視点が示されている。 ○同一の実験を複数回、または複数の実験方法で検証する例が紹介されており、児童が問題を科学的に解決できるよう工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○写真や図が多く使われている。判別しづらい色遣いお避け、実験での試薬の変化などは可能な限り色名が明記されており、ユニバーサルデザインに配慮されたものになっている。 ○実験器具の使い方はQRコードを読み取ることで動画でも確認できる。 ○巻末に、実験器具の使い方の他に、「伝える・聞く」「記録する」「調べる」など、学習に必要な技能についての資料がある。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○ページの下に、問題解決の場面が明示されている。 ○問題文やわかったことなどの、問題解決の各項目のレイアウトが統一されている。 ○紙面の字体はユニバーサルデザインに配慮したものを使用している。 ○各活動にはマークを付けて、目で見てわかるように活動内容が記されている。また、図で考えを表したり、フローチャートをつかったりして考えの整理ができるよう工夫されている。 </p>	
総 括	<p> ○与えられる「問題」ではなく、児童が解決したくなるような導入や場面が設けられている。 ○学ぶことを確認してから学び、振り返りを行う構成になっており、確かな学びにつなげている。 ○命と触れ合うことの喜びや、生き物の気持ちになって考えることに触れ、命を尊重する心が育まれるよう工夫している。 ○すべての観察・実験等の活動について、防災・安全意識が高まるよう工夫されている。 </p>	

種目【理科】

書名 項目	未来をひらく 小学理科	17 教 出
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○各単元末に、児童が自分で習得の度合いを確認できる評価問題「確かめ」を設け、基礎的・基本的な知識や技能を習得できるよう配慮されている。 ○観察、実験においては、器具や装置などについて個別に詳しい解説が載っており、習得すべき基礎的・基本的技能を児童が習得できるようにしている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○予想や計画の場面では、予想や調べ方について自分の考えを伝え合う児童の姿を扱い、既習の内容や生活経験をもとに思考し、表現する力が育成されるようになっている。 ○結果を考察する場面では、得られた結果と自分の予想を比べて考える児童の姿を扱い、自分の予想の確かさを判断し、表現する力が育成されるようになっている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○問題解決の過程ごとに、児童が自らの予想を伝え合ったり、得られた結果をもとに考えを発表し合ったりする場面を取り上げ、対話的に学び合って学習できるよう工夫している。 ○単元ごとに主人公となるキャラクターを設定し、友達との活動や話し合いを通して問題を見いだす構成になっている。また、児童が話し合う場面の例示は吹き出しを使って示されている。 </p> <p> <見通しをもって観察、実験を行うための工夫> ○「計画しよう」で観察、実験の結果を予想する児童の姿を表現したり、「結果から考えよう」で予想と結果の一致・不一致を考える児童の姿を表現したりして、見通しをもつことの意義が児童にわかるように工夫されている。 ○各学年の巻頭に「学習の進め方」をわかりやすく示し、続く紙面も同じ表現で展開されている。 </p> <p> <自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫> ○観察、実験によって得られた結果をもとに、自分の予想を検討する児童の姿を表現し、児童が科学的に問題を解決できるよう工夫している。 ○観察、実験の結果が、予想と一致しなかった場合を取り上げ、児童が自分の考えや調べ方を確認したり、見直したりすることの大切さが実感できるよう工夫している。 </p>	
資 料	<p> ○巻末に1年間の学習で習得してきた事項と学習内容を振り返ることができる資料がある。 ○単元末の「確かめ」では、基礎基本的な知識が身につく問題と、活用問題がある。 ○学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる「まなびリンク」を設け、QRコードを使って情報を見ることができるようになっている。 ○写真やイラストが大きく掲載され、ユニバーサルデザインに配慮したものになっている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○学習上、重要な語句については太字で強調し、マーカーで線が引かれている。 ○問題解決の過程を統一感あるアニメの人気キャラクターのマークで示している。 ○問題解決の各項目はレイアウトが統一されている。それらはページ単位で上から下へ流れるようなデザインになっていて、学習の流れが見やすいようデザインが工夫されている。 ○各活動場面にはマークが付いており、活動のねらいが分かりやすくなるよう工夫されている。 </p>	
総 括	<p> ○巻頭に「学習の進め方」や「自分たちの考えをつたえ合い、学び合おう」を設け、児童が問題解決の学習の流れを意識したり、話し合いの仕方を意識したりできるように工夫している。 ○問題解決の学習によって得た知識を別のものに当てはめて考えたり、身の回りの事象に応用して考えたりする「学びを広げよう」を設け、役に立つ理科の学びを実感できるようにしている。 ○安全に対する配慮が必要な箇所にはめだつ「注意」「きけん」マークが付けられている。 </p>	

種目【理科】

項目	書名 わくわく理科	61 啓林館
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元導入の「はじめに考えてみよう？」と単元末の「もう一度考えてみよう！」の両方のページにより、始めの問いかけを学習の終わりで自己評価することで、自己の習得を確認できる。 ○単元末に「たしかめよう」のページを設け、学習内容を振り返りながら、確実に知識及び技能の定着を促すための工夫がなされている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末に「記録カードのかき方」「ノートのとめ方」、「伝えるときのまとめ方」のページを設け、記録を整理してレポートにまとめて表現する力が身につくようになっている。 ○「結果から考えよう」のコーナーでは、観察や実験の結果を基にして、考えを深める視点が示されており、思考力や判断力をつけることができる。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「理科の広場」や単元末の「つなげよう」のページでは、社会や日常生活と関連した内容を、絵や写真で表しており、理科への興味や関心を高める工夫がなされている。 ○「もっと知りたい」のページを設けることで、観察、実験から分かったことからさらに新たな問題発見へと向かう意欲づけができるような工夫が見られる。 <p>＜見通しをもって観察、実験を行うための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の導入で「学習のめあて」を示し、単元で学習する内容を意識させ、見通しをもってその後の観察、実験へと取り組めようになっている。 ○キャラクターの吹き出しセリフによって、学習の見通しをもたせるためのヒントとなるような工夫が見られる。 <p>＜自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元末に「活用しよう」のページを設け、図や写真から必要な情報を読み取って、考察する問題を扱い、知識を応用する力や科学的に説明する力を養うようになっている。 ○巻末に「理科の考え方をはたらかせよう」のページを設け、各学年で育成すべき問題解決の力をノーベル賞受賞者等の著名な科学者のメッセージや具体的な事例を示してある。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年ともに観察、実験の中から条件を制御する活動を入れたり、実際にセンサーやコンピュータを活用したりする学習を取り入れ、プログラミング教育への対応がなされている。 ○単元の始まりと終わりをはじめとして、紙面にQRコードを掲載し、学習内容と関連する参考情報をタブレット等のICT機器で閲覧できるようになっている。 ○「保護者の方へ」のページを設け、理科の楽しさを家庭に広げるように工夫されている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程を「①見つける→②調べる→③ふり返る」とフローチャートのように矢印で結んだレイアウトになっており、児童が学習の流れをつかみやすい表記になっている。 ○他社の教科書に比べて、字体のポイントが大きめであり、行間も十分に設けていることにより見やすくなっている。 ○最新情報の写真やデータが多く掲載されており、見やすく分かりやすくなっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が主体的に問題解決に取り組むことができるような構成になっている。 ○基礎、基本を確実に理解させた上で、科学的な思考力や表現力が育つような構成になっている。 ○実生活との関連を意識させる内容が多く、児童が理科を学ぶことの有用性を実感でき、学びつづける意欲づけができるようになっている。 ○AB版で開きやすく、強度もある綴じ込みになっているので使いやすい。 	

種目【生活科】

書名 項目	どきどき わくわく あたらしい せいかつ 上 あしたへ ジャンプ あたらしい せいかつ 下	2 東書
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の学びを生かした板書や掲示を背景の中で示している。 ○配慮しなくてはならないポイントについて、常に右上に記されている「やり方」の欄で、活動を限定しないように内容を精選し、簡潔に示している。 ○理科や社会科につながる問いかけを掲載することで、児童の学びへの意欲を喚起している。 ○カードの書き方を説明している実物大のページがあり、初めてカードを書く児童にとってお手本にしやすくなっている。 ○下巻で1年の四季の違いを表している口絵の部分が、見比べられるように左側のページになっており、変化を発見しやすい。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○挿絵にある吹き出しや表現作品、掲示物の例から、具体的に「何ができるようになるか」がイメージしやすい。また、児童の吹き出しや姿、表現作品が評価規準を示唆するようにできている。 ○下巻の「学びをふかめるコーナー」において、「深い学び」の過程である、対話によって活動を深める姿・新たな活動に向かう姿・表現活動の具体例が示されており、「深い学び」をイメージしやすくなっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○興味・関心に応じて、選択的・発展的に活用することができる「やってみよう」が随所に設けられている。 ○遊び図鑑などの活動の資料の種類が多く、どの児童にとってもやりたいことを見つけやすくなっている。 <p><具体的な活動や体験を通しての気づきの質を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○單元ごとに、中心的に活躍する登場人物を設定し、思いや願いを実現していく過程を共に体験しながら、資質・能力を育成することができるような構成を工夫している。 ○下巻巻末に「見つける」「くらべる」「たとえる」「ためす」「見とおす」「くふうする」など、気づきの質を高めるための学習活動が具体的にまとめて示されている。 ○カードの書き方や体全体をつかった表現方法を示すページなど、豊かな体験活動を支援する資料が多く掲載されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻末資料「かつどう べんりてちょう」において、生活科の学習で身に付く習慣や技能をまとめてあり、活動に応じて活用することができるようになっている。特に、下巻では、学習を進めるうえで必要な習慣や技能である「学び方」を豊富に掲載している。 ○A4判にしたことで、活動の様子を示した写真だけでなく、学びのプロセスを挿絵と吹き出しで表しており、学習の見通しが立ちやすい。 ○「ほんとうのおおきさぼけつとずかん」は切り離すことができ、屋外での活動に持って行きやすい。 ○web上のコンテンツを保護者と一緒に活用できる「Dマーク」を付け、保護者と学びを共有できるように工夫されている。 	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○特別な支援を必要とする児童も含め、すべての児童が読みやすいよう、單元名や本文は定位置に配置し、フォントや色相もユニバーサルデザインとなるように工夫されている。 ○全ての漢字にルビを振り、文節で改行して外国人の児童にも判読しやすく配慮されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○A4の大きな教科書だが、紙を工夫してあり、教科書自体の重さはとても軽い。 ○家庭で保護者と学ぶため、保護者向けのスタートカリキュラムの説明や、単元の端々に保護者への説明が見受けられる。 ○挿絵にある吹き出しや表現作品、掲示物の例から、具体的に「何ができるようになるか」がイメージしやすく、学習の展開がつかみやすい。 	

種目【生活科】

書名 項目	たのしい せいかつ 上 みんな なかよし 下 なかよし ひろがれ	4 大日本
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○綴じ込んである「たんけんカメラ」は、パンチで穴をあけたのぞき穴から気になる対象をのぞき込む。穴が小さく覗き込みにくい、子供の視点を明確にすることができる。 ○身近な人々、社会、自然を対象とし、子供の発達段階に即した活動内容を取り上げている。 ○巻末にある「がくしゅう どうぐばこ」は、オノマトペをはじめとして、言葉を大切に取っている。 ○紙面を有効に使って、たくさんの参考資料を盛り込んであり、どの児童もやりたい活動を見つけることができる紙面となっている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○答えを示さず、子供自身が考えたり、友達と比べてみたりするなど、子供自身の思考が促される資料の提示をしている。 ○表現活動を適切に位置づけ、多様な表現方法の例示や、伝え合いによる気づきの共有化を図っている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○スタートカリキュラムに配慮し、幼児期からの学びがつながる工夫をしている。 ○諸感覚を活用して自然と触れ合うことで、環境にも目を向け、大切にしようとする心を育むよう配慮している。 ○活動後の振り返りから、次の活動へつながる流れを示している。 ○下巻の「夜の長さってどのくらいかな」のページは、子供の探求心を高めることができるように作成されている。 </p> <p> <具体的な活動や体験を通しての気づきの質を高めるための工夫> ○学校のことを家庭で報告する場面を設け、家庭と連携し、生活の中で気づきの質を高めるようにしている。 </p>	
資 料	<p> ○子ども目線のダイナミックな活動写真が多く、興味・関心・意欲を引き出している。 ○巻末資料「がくしゅう どうぐばこ」で、幅広い知識を身に付けられるようにしている。 ○絵本みたいな絵、現代風の絵、イラスト風の絵など、いろいろな種類の絵になり、統一感に欠けるが、豊富なイラストで理解しやすく作成されている。 ○スタートカリキュラムは、入門期の児童が全てを見ることができかわからないほどの豊富な資料や情報が用意されている。 </p>	
表 記 ・ 表 現	<p> ○ユニバーサルデザインフォント、カラーユニバーサルデザインを踏まえた配色などを使って、特別な支援を要する児童にも利用しやすくしている。 ○子供が登場する場面で、男女の数が平等になるように配慮するとともに、幼児、高齢者、肌や目の色が異なる人や障害のある人など、多様な人々と関わる例を取り上げている。 </p>	
総 括	<p> ○表紙の凹凸が手に心地よく、わくわくさせる効果がある。 ○綴じ込んである「たんけんカメラ」は、パンチで穴をあけたのぞき穴から気になる対象をのぞき込むことで、子供の視点を明確にすることができ、意欲的に取り組むことができる。 ○紙面を有効に使ってたくさんの参考資料を盛り込んであるが、情報量が多すぎ、中心とする情報が伝わりにくい。 </p>	

種目【生活科】

書名 項目	しょうがっこう せいかつ 上下	11 学図
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○もくじのページで1年間の学習をまとめて示し、見通しをもたせている。内容ごとの大単元構成にし、ねらいを明確にしている。 ○「ワンポイントアドバイス」を設け、基礎となる事項をわかりやすく示している。「ものしりの一と」は学習体験や知識が広がるように構成されている。チェックボックスで技能の習得を確認できる。 ○四季の様子をまとめて示したり、アサガオの生長を比較できるようにまとめたりしている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○自己決定する場面や解決していく過程を提示して、見通しをもたせている。 ○発達段階を考慮した記録例や多様な表現方法を示して、児童が気付きや思いを表現できるように促している。 ○個性的なキャラクターを登場させ、対話を通して友達の考えに気付くことができるように、多様な対話活動の様子を示している。 ○栽培飼育の記録や探検活動の記録などでは、ノートやカードの記録を重視し、それらを振り返ることで自分の成長を自覚できるように構成している。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○単元ごとにひとまとまりとした大単元方式で、活動を振り返り、自分の成長を自覚することができるようにしている。 ○友達をはじめ、他者とのかかわりを重視し、協力する態度が身に付くようにしている。「ありがとう」感謝の気持ちを伝える場面を示し、相手を思いやり感謝する気持ちを育てている。 ○自己決定の場を大切にしている。「アサガオ」の鉢に好きな絵を描いて「わたしの」アサガオという意識を高めるなど、自立へとつなげる工夫をしている。 </p> <p> <具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫> ○上下巻ともに生き物に触れる単元を配置して、動植物等の素材とも対話を通して生命・他者の尊重へつなげている。 ○栽培単元・飼育単元の活動を重視し、継続的に生き物とかかわる活動から、自然を尊重し、環境を守る態度を養えるようにしている。 ○課題のたせ方を2つの段階で変化させ、「見つける」から「深く調べる」へ発展させている。図書館を活用した調べる活動も取り入れている。 </p>	
資 料	<p> ○上下巻末の「学び方図かん」で、基本となる学習スキルや安全の事項を示している。下巻では、「試す・見通す」などの具体的な言葉も提示されている。 ○本文中に「ものしりの一と」として、記録やモノづくりなどの活動、参考となるページが充実している。 </p>	
表 記 表 現	<p> ○装飾や指示を抑えたシンプルで見やすい紙面で、ポイントを視覚化している。単元が大きく4つの段階に分けて示されており、活動の展開に見通しがもてるように工夫している。 ○ユニバーサル化を徹底し、発達段階に合わせてわかりやすい表記を工夫している。 </p>	
総 括	<p> ○活動の様子を示した写真は美しく魅力がある。学習活動中の教師のコメントや吹き出しの言葉が評価の視点を示している。 ○家庭におけるかかわり方のヒントがふんだんに盛り込まれ、家庭を巻き込んで学習体験が広がるように工夫している。 </p>	

種目【生活科】

書名 項目	せいかつ 上 みんな なかよし 下 なかよし ひろがれ	17 教出
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○生活科で育成する資質・能力を6つの力にまとめ、サイコロにあてはめて見出し横に配置しており、児童が活動のめあてをつかみやすくなるとともに、指導のポイントがつかみやすくなっている。 ○上下巻の巻末に、生活科の学習に必要な他教科で学んだ知識や技能、習慣が整理されており、繰り返し活用することができるようになっている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○言語活動、身体表現、記録カード、新聞、手紙等の様々な方法で表現し、先生や友達と対話したり、じっくり考えたりして、深い学びへとつなげている。 ○「自分」を同じ目線で一緒に学習するキャラクターに投影することができる。また、生活科を学習する2年の間、一緒に成長していく教科書に出てくる2人の友達(花ちゃん・大地君)とともに活動しながら、比較や関連付けがしやすくなり、思考を深めることができる。 ○活動を見通したり、具体的に行う内容を考えたり、振り返ったりする場面に「空欄」を設けて、学びの足跡を残すことができる。 ○自分の考えを友達に伝えたり、友達や町の人にインタビューしたりする時の話し方を示す際に、全て示すのではなく、「○○がたのしかった。」のような話型で示すことで、自分の考えを広げることができる。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○単元の最後に「なにをかんじたかな」という振り返りの時間を設け、自分との関わりで捉えた見方・考え方を育てることができるようにしている。また「まんぞくハシゴ」のコーナーでは、自分の思いを自己評価することで、自信や意欲を高めることができる。 ○「やくそく」や「できるかな」のコラム欄を設け、道徳科と関連を図りながら社会性を養うようにしている。 ○コラム「はってん」を設け、生活科の学びが3学年の理科や社会の学習につながるという見通しや期待をもつことができるようにしている。 </p> <p> <具体的な活動や体験を通しての気づきの質を高めるための工夫> ○キャラクター「はてな」の問いかけにより、活動の意義を理解させ、気づきの質を高めることができる。 ○担任の先生として登場するキャラクターが児童に問いかける吹き出しが多く、問いかけを読むことで自分が責任をもってやり通すことができるか等に気付かせることができる。 </p>	
資 料	<p> ○学習資料の動画にリンクするQRコードがあり、ICT機器を利用した活動につなげやすくしている。 ○スタートカリキュラムの部分や1・2年の学習内容全体において、言葉による説明が少なく、写真を通して自分で気づくことができる。 ○ページの下部にタブが印刷されており、年間を通して今何をやっているか、これからどんなことをするのかの見通しがつきやすいつくりになっている。 </p>	
表 記 表 現	<p> ○「パラリンアート」を掲載するとともに、また、環境問題に関する資料を掲載している。 ○障がいのある人や肌や目・髪の色異なる人との共生について理解を深めようとしている。2学年の担任が男性になっており、性差別にも気を遣っている。 ○ユニバーサルフォントを用い、特別支援教育への対応を図っている。 </p>	
総 括	<p> ○生き生きとした活動の様子が分かる写真や思考を整理するためのツール（ウェビング・Xチャート等）を活用した板書を盛り込んだり、実際の授業の板書の具体例を端々に盛り込んだりすることで、教師がどのような流れで授業をするとよいかの見通しがつきやすい。 ○挿絵に児童を引き込む力があり、呼びかける言葉も精選されている。 </p>	

種目【生活科】

書名 項目	せいかつ 上 まいにち あたらしい せいかつ 下 だいすき みつけた	38 光村
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <p>○児童自身に考えてほしい点—どうすれば—の印が示されている。活動を深く豊かにするヒントと「どうすれば〇〇できるかな」と問いかけ、学びが3段階になっていて、児童が場に応じて考え「主体的・対話的で深い学び」が実現できるようになっている。また、同時に技能の習得にも繋がっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○子どもたちの思考の流れに沿った体験活動と表現活動の例を示されている。体験活動と表現活動を繰り返し、その相互作用の中で気づきを関連づけたり視点を変えたりすることで、気づきの質が高まるようになっている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○子どもたちの心を動かし活動にいざなう「ホップ」、学習のプロセスを明確にした「ステップ」、振り返ることで学びを深める「ジャンプ」の3段階で構成されている。学習の流れやねらいを明らかにし、興味を抱き学んでいくことができる。</p> <p><具体的な活動や体験を通して気づきの質を高めるための工夫></p> <p>○単元の終末には、学びの「ジャンプシール」を貼る場所があり自分の活動を振りかえることができ、学びを深め日常生活につなげるようになっている。</p> <p>○教科書内では、ユーモラスなキャラクターが随所に現れ、子どもの興味・関心に応じている。キャラクターの二次元コードを読み取ることで、さまざまな資料（季節・交通安全・道具の使い方）を見ることができる。</p>	
資 料	<p>○幼稚園・保育所等の円滑なつながりや中学年への接続、また他教科と有機的につながる活動が随所に設けられている。上巻の導入には、スタートカリキュラムのページがあり小学校への期待感と安心感をもち学習できる。</p> <p>○イメージ豊かなイラストが子どもたちを活動へといざない、確かな学びが得られる。具体的に描かれたや学習のプロセスを明確化している。</p>	
表 記 表 現	<p>○児童が親しみやすくなるよう吹き出し等には、止め・はね・はらいなども正しく、手書き風書体を用いている。また、特設コーナーの見出しなどには、読みやすさを強調して作られたユニバーサルデザインが使われている。</p> <p>○教科書全般にわたり、性別・人種・身体的特徴・家庭環境・家族構成に偏りがなくなっている。</p>	
総 括	<p>○他教科で見つけた資質・能力を生活の学習でも活用できるように示されている。</p> <p>○今日的課題への取り組みが、言語能力の育成・学力向上・家庭との連携・ユニバーサルデザインなど、様々な特徴がみられる。</p> <p>○他教科との合科的・関連的な学習のヒントが随所に示されている。</p>	

種目【生活科】

書名 項目	わくわく せいかつ 上 いきいき せいかつ 下	61 啓林館
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な知識及び技能や学び方が身につくように巻末資料「がくしゅうずかん」には、調べ方・記録の仕方・話し合いの工夫・まとめ方などが一連で示されたり、用具の使い方・安全上の注意などが示されたりしている。 ○「こんなときどうしよう」などの各種コーナーでは、基本的な知識及び技能や、あいさつ、マナー、安全に関する注意事項が学習できるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○気付いたことをもとに考えるための多様な学習活動（見つける、比べる、たとえる、試す、見通すなど）の例が写真・表現物・イラスト・児童の台詞などで示されている。 ○単元が導入「わくわく」→主たる活動「いきいき」→ふり返り「ぐんぐん」の3段階で構成され、学びのプロセスが分かるようになっている。その後、総合的な学習へつながるようになっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の良さに気付き、自分の成長を感じることができる学習活動が設定されている。また、互いのよいところに共感し合ったり、保護者からの手紙などで称賛したりして、認められるように配慮されている。 ○単元末「ぐんぐん」紙面では、学習をふり返り、自らの成長や学びの深まりを実感することができる。 <p><具体的な活動や体験を通して気づきの質を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動の中で生まれた「次は、もっとこうしたい」などの思いや願いが、次の活動につながるように連続性のある単元が構成されている。 ○活動した楽しさやそこで気付いたことなどを言葉、絵、動作、劇化などで表現する活動がたくさん掲載されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○キャラクターの発言やマークなどを用いて交通安全や道具を使うときの注意などが、的確に押さえられている。 ○上巻の導入には、幼児教育との接続としてスタートカリキュラムが掲載され、下巻の巻末では、中学年以降へのつながりとして「3年生へのステップブック みらいにむかって」の資料単元が掲載されている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○イラストの児童のつぶやきが、ヒントになり意欲・驚き・喜びを表現するきっかけになるよう工夫されている。 ○興味・関心を喚起する様々な写真が、適切に配置されている。 ○思いやりや願いが次の活動につながるようになっている。ぬくもりのある言葉があり、主体的な学びの実現につながる。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「これは、なにかな?」「やってみたいな」などの子どものつぶやきやこれまでの経験を大切にして、単元は、子どもたちの日常生活からはじまり、関心や意欲が高まるようになっている。 ○カリキュラム・マネジメントの視点から、他教科との関連や中学年以降の理科や社会科、総合的な学習の時間などにつながる学習活動を設けられている。 	

種目【生活科】

書名 項目	わたしと せいかつ 上下	116 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">日 文</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○上巻の冒頭にスタートカリキュラムを特設し、幼児期の豊かな経験を生かして、文字が読めない入学時においても学校生活に自信がもてる構成となっている。下巻の冒頭では、2年生のスタートカリキュラムを設け、合科的・関連的が学習プログラムを示してスムーズな適応を図っている。 ○単元の導入で学習内容を整理して示し、見通しをもって学習していくようにしている。小單元ごとに、タイトル、児童の言葉、学習のめあてを示し、押さえるべきポイントをわかりやすくしている。 ○活動後の片付け方を示して、日常生活に役立てたりリサイクルの意識につなげたりするよう配慮されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○キャラクターが示す気付きのヒントや思考を促す写真・吹き出しを工夫して、気付きの質を高めながら学びを定着させ、次の課題が見つけれられるように思考を促している。 ○学習カード例などでは「見つける」「たとえる」「比べる」「試す」「見通す」「工夫する」といった活動を織り込んで、無理なく学びを深めることができるようにしている。 ○実際の授業で、子供たちが考え、判断し、表現している姿を撮影した写真により、対話に満ちた活動をイメージしながら主体的に学習に取り組むことができるようにしている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○上巻では主に自然とのかかわり、下巻では社会とのかかわりを中心に、2年間を通して生活を豊かにしていけるように構成されている。 ○下巻の最終単元では、身に付けた汎用的な知識・技能を、3年生以降の学習に活かせるような活動例を示し、円滑な接続を図っている。 <p><具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学びのまど」で活動を振り返り、自分の生活につなげるヒントを示している。気付きの質を高めるとともに、次の課題への意欲付けになっている。 ○実際に行われている授業の写真は、児童の好奇心をかきたて、具体的な気付きとなって学習の見通しをもつことができる。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○自然災害、交通災害、人的災害の観点から安全への配慮を多く提示している。巻末に防災安全の資料を特設している。 ○2020 東京オリンピック・パラリンピックとの関連ストーリーを掲載している。(下巻) ○巻末資料「ちえとわざのたからばこ」で、知識・技能が自然に身に付くように学習材を豊かに示している。他教科の学びにつながる事例も掲載されている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字に振り仮名をつけ、読みやすくしている。板書として示されている文字も、正しい書体で書かれている。 ○視覚障がい者用の点字を直接体験できるような、特殊印刷のページがある。UDに配慮されている。巻末の「点字にふれてみよう」では、凹凸のはっきりした指先でとらえやすい点字が示されている。従来より15%軽量化した紙を使用している。 ○紙面の全面に実践写真を掲載するなど、インパクトが大きく直感的に学習を捉ええられる。一方で、多くの資料が掲載されたページは視点がぼやけてしまっているところがある。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○シンプルなレイアウト、わかりやすいタイトル、各要素を紙面の定位置に置くことなどで、学習の見通しがもてるようにしている。 ○上下巻末が充実し、必要な知識及び技能、習慣が身に付くようにしている。他教科の学びにつながる事例も豊富に取り上げている。 	

種目【音楽科】

項目	書名 小学音楽 音楽のおくりもの	17 教出
内容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○領域・分野ごとに系統的に教材が配列されており、分かりやすく見開きごとに「学習のめあて」や、題材ごとの学習の見通しが提示されている。 ○楽器の実物大の写真を用いたり、児童側から対応できる向きで示されていたり、奏法がわかりやすくなっている。 ○知識・理解が確認できる透明シートや、前の学習との関わりが分かる「ふりかえる」や、他のページとの関連がある部分にマークがあり、系統的に学ぶ工夫がされている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学び方や学習の手順を知ることができる「まなびナビ」の活動により、音楽表現を工夫することができるようになっている。 ○聴き取った「音楽を形づくっている要素」をもとに、個々の音楽を捉え、魅力を感じ取ったり思いや意図を生かした演奏技能を身に付けたりするような、教材の工夫がある。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達段階を鑑み、生活の中の音楽をより多く取り入れながら体を動かし、深く曲を理解し、豊かな情操を培い、学びに向かう力を育めるように工夫されている。 ○多種多様な音楽をもとに音楽観の拡大に役立つ教材が設定されていたり、オプション教材が掲載されていたり、児童の音楽への興味関心を高められる工夫がある。 ○多様な学びに対応するために、「まなびリンク」として、目次にQRコードを載せ、学習に役立つWEBコンテンツとして紹介されている。循環コードをもとにしたアドリブやジャズの取り扱い等、様々な音楽観を拡大できるような教材が含まれている。 <p><生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○我が国の音楽や祭り等の音楽や民謡などが豊富に掲載され、選択教材として和楽器にチャレンジできる内容が盛り込まれていたり、興味・関心が深まるような風景や楽器の写真が掲載されていたりする。 ○中学校で学ぶ発展的な知識について記載されている部分にマークがあり、系統的に学ぶ工夫がされている。 	
資料	<ul style="list-style-type: none"> ○拡大写真や挿絵で曲のイメージをもつために、3ページ分の見開きが用いられている。 ○巻頭の写真には、児童の生活になじみのある音楽について、抜粋された写真が掲載されており、音楽の学習への期待が高まるようになっている。 ○巻末には音楽の要素がまとめられており、理解しやすい配色にて掲載されている。 ○国歌「君が代」について、歌詞の大意が示されており、伝統と文化を尊重し、他国を尊重する態度を育むように配慮されている。 	
表記 ・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> ○「共通事項」が教材ごとに「音楽のもと」として示され、3年以上にメモ欄が付けられている。 ○「はってん」として、記号や用語について、巻末や別枠に示されている。 ○児童が聴き取ったことなどを言葉で表す言語活動を生かしたポर्टフォリオが設定されており、書き込むことができる。 	
総括	<ul style="list-style-type: none"> ○使用しやすくなるために、教科書の大きさや楽譜・文字の大きさ等が発達段階に応じている。 ○全学年通して、創造力を高められるような教材が多く、深い学びになるような取り扱いができ、創る音楽の教材では、その段階がスムーズで、楽しく学べ、音から音楽へ構成することができるように工夫されている。 	

種目【音楽科】

書名 項目	小学生の音楽	27 教芸
内 容	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年間のつながりを見通した系統的な題材構成になっており、題材のねらいに即した教材が扱われ8～10題材で構成されている。 ○楽器の持ち方や奏法が図や写真で具体的に提示され、正しい姿勢・奏法がわかるようになっている。 <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各領域において児童の思考が深められるように、活動手順が示されていて、図や写真が効果的に配置されている。 ○作品例やワークシート例、グループ活動時の会話を吹き出しにより例示し、児童が表現について思いや意図をもったり、音楽のよさを味わいながら聴いたりすることができる。 <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が主体的に学習に臨むことができるように、1年間の学習の見通しをもつ「学びの地図」や、学習したとの確認ができる「ふり返りのページ」を設けている。また、「新しく覚えること」「そだてよう」のコーナーも設定され、学習の積み重ねができるようになっている。 ○多様な学びに対応するために、曲紹介や動画などのコンテンツを閲覧できるQRコードを、教科書の内容に対応させ活用できるように工夫されている。 ○言葉や音でコミュニケーションを図ることができる教材やコラムを設けて、対話的な学びが深まるように配慮されている。 <p>〈生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○我が国の伝統的な音楽・古典芸能に関わる題材を大切にし、それらに親しみながら学習が進められるようになっている。音楽の歴史をつくった世界や日本の音楽家についても学習できる。 ○外国語の遊び歌や躍り歌、国際理解教育との関連に配慮して英語の歌が掲載されている。また鑑賞曲では、世界の国々の音楽に親しみを持ち、それぞれの国の文化を学ぶことができる。 ○各学年において、生活の中の身の回りの音や音楽に対する意識を高める活動が酒列されており、生活を豊かにすることへの気づきにつながる写真やコラムの記載がある。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○器楽の楽器やオーケストラの楽器の写真や演奏の様子の写真が大きく掲載されており、楽器名や楽器の並び方もわかりやすく表示されている。 ○我が国に伝わる風習を大切に資料や風景が厳選され、わかりやすく見やすく配置されている。 ○国歌「君が代」への意識を高めると共に、発達段階に応じて国際性を養うことができるように国歌が取り扱われている。 ○「こころのうた」に使用されている写真は、曲のイメージがとらえやすくなっている。また、地名や演奏している団体名等が表記されていて、児童の身近に感じられる資料になっている。 	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年の発達段階に合わせた文字の大きさ、数、配置、レイアウトが工夫されている。 ○見開きのページの端に題材名と題材のねらいが示してあり、毎時間見通しをもって学習することができるとともに、基礎基本の充実を図るための「共通事項」も示されている。 ○様々な学び方のマーク（音楽づくり・新しく覚えること・思いだそう・鑑賞・チャレンジ・ステップアップ）が表示され、教材の学びを可視化することができる。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○学習をスムーズに進められるように題材や教材が系統的・発展的に配列され、学習内容の分量も適切に配列されている。 ○音楽で社会や身の回りの人々とつながる学びをし、生活を豊かにする心を育むことができる。 ○紙面編集全体的に、特別支援教育の視点にあった配慮や、色覚特性をもった児童への配慮がされている。 	

種目【図画工作科】

書名 項目	図画工作	9 開隆堂
内 容	<p> <知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○①各ページ下「ふりかえり」により、学習を通して何ができるようになったか自覚することができる。②「ぞうけいのひきだし」に表現技法等がわかりやすく書かれている。③巻末「まなびのしりょう」に材料や用具の使い方をシンプルに示している。④「ちいさなびじゅつかん」で生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを示している。などにより造形的なものの見方や考え方、鑑賞の方法等、知識や技能が身に付くよう工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○①題材のめあてに対応したキャラクターが児童の学びを深めるためのキーワードを簡潔に示している。②製作中の児童のつぶやきを示され活動のプロセスを示している。③児童の手元の写真により、材料の質感等が感じられ、深い学びに結びつく。④児童が試行錯誤し製作する姿が示されている。⑤友達と協働する活動を多く提示している。などにより造形的な見方や考え方を深め、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す工夫がされている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○①アップとルーズにより、意欲を喚起し見通しをもって取り組める活動写真②友達との関わり、学び合いを意識した題材設定③つくりだす喜びや楽しく豊かな生活を創造する姿勢が感じられる表情豊かな写真資料④対話により学びを深める児童のつぶやき⑤「つながる造形」での身近な作品から新しい表現の紹介 などにより、図画工作科の学びを通して楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う内容になっている。 ○各巻の表紙裏に「図画工作を学ぶみなさんへ」のメッセージがあり、発達段階に応じて生活や社会の中の形や色、美術や美術文化などと豊かに関わっていく学習であることを明示している。 </p>	
資 料	<p> ○三つ折りのページでは幅の差があり、扱いやすい資料である。 ○用具の使い方については使用する場面の写真が掲載してあり、わかりやすい。 ○児童の意欲を喚起する色鮮やかな写真が多い。 ○日本の文化や地域特有の文化、題材に関連した楽器等の資料が掲載され、生活の中の美術を学ぶことができる。 ○表紙は、題字が身近な材料で表現され、作品から絵の具のにじみやかすれなど、子供の手の感覚が伝わり、児童の学習意欲を向上させ豊かな創造性を培う工夫がある。 </p>	
表 記 表 現	<p> ○①育てたい資質・能力に対応したキャラクターが的確なアドバイスを伝えている。②「! あんぜん」により、注意喚起のポイントが示されている。③ページの決まった位置に「材料」が示され、見通しをもって主体的に学ぶことができる。④特に大切な内容は赤で印字、下線で強調され、わかりやすい。⑤色・道具・形の英単語表記があり、他教科との学びに接続できる。⑥低学年では話しかけるような言語表現が多く、親しみやすい。など児童の多様な学び、深い学びの実現を促す表記・表現がある。 </p>	
総 括	<p> ○全体的に画面が明るく、教科書を広げるとワクワクするような紙面の構成になっている。 ○文の改行、写真や図の重なり、配色、配置などにより障害のある児童も含む、より多くの児童にとってわかりやすい工夫がある。造形遊びでは、地域や児童の実態に応じて使う材料が選択できる配慮がある。 ○「あわせて学ぼう」では教科間の接続を示し教科横断的な学習を支えている。また「片付け」の場面も示し、環境への配慮、公共の精神などの道徳性を養うための工夫がある。 ○用具の扱いについて具体的な場面ごとに紹介され、安全な活動を保障する内容である。 ○「できたらいいな」ではものづくりの価値を伝え生活を豊かにする造形や美術の働きを実感することができる工夫がある。 ○QRコードが掲載され、動画等で手順や用具の使い方がわかる工夫、ICTを活用した授業にむけた工夫がある。 </p>	

種目【図画工作科】

書名 項目	<h1>図画工作</h1>	116 日 文
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○①「使ってみよう材料と用具」では、各道具の使い方のみならず、思考を促し、いろいろ試してみたいくなるしかけがある。②発達段階に合わせて、児童が自分で参考にする際に使うことができる資料の工夫がある。③技能についてのアドバイスが分かりやすく書かれている。④「つくりかた」に製作の活動写真と吹き出しの言葉があり、児童の思いを表現するためのヒントになる。など、児童が自分の感覚や行為を通して造形的な視点について理解できるよう、工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○①各題材で製作途中の児童の活動写真が多く掲載されている。②試行錯誤し、つぶやく児童の言葉が掲載されている。③「ちろたん」というキャラクターが色や形について様々なアドバイスを通して活動のヒントを示している。④手や体を使ってさわり心地や温度などから発想を豊かにしたり、色や形に関心をよせたりできるような題材の紹介がされている。⑤友達と話し合い、学び合いながら表現する資料が多く使用されている。⑥「みんなとつながる」(3・4年上)、「地域とつながる」(5・6年上)など地域の方と協働したり、地域に学びを紹介したりする、社会に開かれた教育課程の実現を目指す取組が紹介されている。など、児童の見方・考え方を深め思考、判断力、表現力を育成するための工夫がある。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○①写真は児童の目線で撮影されたものが多い。②各本の5ページに「たのしいなおもしろいな」～「見つめて広げて」のメッセージがあり、簡潔に学びのめあてが書かれ、意欲的に学習に向かうことができる。③「外国の友達の絵」など国際理解につながる学習、多様性への配慮がある。④児童作品を学校や地域の施設に展示する事例が紹介されている。などにより学習への意欲を喚起し、発達段階に応じて図画工作科の学習を通して広く社会と交流し、主体的に活動する力を涵養する工夫がある。</p>	
資 料	<p>○「教科書美術館」には身の回りのものから形や色の面白さを見つけられる工夫がある。</p> <p>○各題材で作者の言葉が掲載され、作品の見方や鑑賞の観点を学ぶことができ、よさや美しさを感じ取ったり考えたりするためのヒントになる。</p> <p>○「ひらめきポケット」では、新たな見方や面白さを主体的に発見するための充実した資料が掲載されている。</p> <p>○1・2年上巻、3・4年上下巻などに自然物、人工物など作品以外の多彩な資料があり、生活を美しく豊かにする造形の理解や、色や形など造形的な見方・考え方を働かせるための工夫がある。</p> <p>○巻末の材料と用具の基本的な扱い方の説明の図版がわかりやすい。</p>	
表 記 ・ 表 現	<p>○①育てたい三つの資質・能力をマークで示し、めあてをもって学習できるようになっている。②3観点のめあてのマーク、「気をつけよう」、「かたづけ」、使用する用具のマークなどわかりやすい記号・表記がページの同じ位置にある。③題材名がその活動を想起させ、児童のワクワクする心を引き出すデザインである。など配慮の必要な児童の学習を含め、児童の主体的な活動を促す分かりやすい表記・表現である。</p>	
総 括	<p>○文字の大きさが適切で、全体的に見やすく、わかりやすい構成である。</p> <p>○材料や用具の使い方について気をつけるべき事項と片付けの方法が簡潔に明記され、安全・防災面の配慮が十分にされている。</p> <p>○子供の心が動く造形遊びと鑑賞活動のページが特に充実している。</p> <p>○児童自らの手で生活を豊かにすることができる美術の働きが実感できる工夫がある。</p> <p>○保幼小の連携した学び、算数科、国語科などとの教科横断的な学びができる題材配列の工夫により児童の様々な学びをつなぐ工夫がある。</p>	

種目【家庭科】

項目	書名 <h1>新しい家庭科</h1>	2 東書
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○小題材（ステップ）に「めあて」とそれに対応した「振り返ろう」が設けてあり、学習のねらいが明確になり、振り返りによって学習内容の定着が確かめられる工夫がある。各技能実習の最後には、「できたかな？」の欄があり、自己評価で振り返りができる。 ○生活に必要な基礎的・基本的知識及び技能を「いつも確かめよう」にまとめ、児童自らが確認できるよう工夫されている。 ○技能の習得ができるようイラストや写真で丁寧に説明している。実物大の写真を掲載したり、実習例の写真が多用され手順がわかりやすく示されたりしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全ての題材が「見つめよう」「計画しよう・実践しよう」「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の3つのステップで展開され、課題の解決に向けて考え、表現できるように構成されている。 ○「話し合おう」「調べよう」などのコーナーがあり、思考力を高め、主体的・対話的な学習が進められるようになっている。 ○児童の思考を深めるような言葉を、吹き出しを使って投げかけている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○大題材ごとに「家庭科の窓」で家庭科の見方・考え方を示し、生活を見つめる視点を明確にし、生活をより良く工夫する資質能力を育成できるように構成されている。 ○「生活を変えるチャンス」のコーナーが設定され、それまでの学習を生かしてできる取り組み例やまとめ方の例を示し、学習を生活へ生かす工夫がされている。実践の進め方が示され、児童が家庭、地域で安心して取り組めるようになっている。 <p><実践的・体験的な活動の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「図」のマークを使って学習を深める資料や写真等が示され、実感を伴って理解できるような工夫がされている。 ○題材の最後に、「深めよう」や「トライカード」が示され、題材を通して学んだことを実生活につなげていくような問いかけや課題設定が工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻末に「いつも確かめよう」の拡大版がまとめて収載されていて、基礎的・基本的な知識や技能を必要な時にいつでも確認できる。左利き用の資料も提示されている。 ○「日本の伝統」では、日本の伝統的な食文化や生活文化に関する内容、「プロに聞く！」では、キャリア教育と関連させて学習内容と仕事とのつながりを資料として収載している。 ○家庭科に関係する用語の説明や、家庭科に関係のある言葉の英単語が掲載されている。 ○「Dマーク」が示され、インターネットにつなげることにより、動画を活用して、基本技能を確認できるように工夫されている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○「安全」「環境」など、多くの記号やマークを活用してあり、様々な知識を得たり、活動の参考にしたたりできるようになっている。 ○ユニバーサルデザインの考えを採用し、色彩や字体への配慮、大きなイラストや写真が掲載されている。 ○学習内容別にマークや色を設定し、系統性が可視化できるように工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○めあてをもって学習し、振り返りながら学習を深め、家庭での実践・評価へとつなげられるような配列に工夫されている。問題解決的に学習が進められるよう、全ての題材が3つのステップで展開されている。 ○経験の少ない児童でも実習や活動が行いやすいよう、イラストや写真で丁寧に説明している。教科書がA4サイズで大きく、資料や写真なども豊富である。 ○学習したことを実生活で実践できるように、新しい課題の提示や取り組み例などを効果的に掲載している。 	

種目【家庭科】

書名 項目	<h1>わたしたちの家庭科</h1>	9 開隆堂
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な知識技能が身に付けられるよう、スモールステップで平易なものから難しいものへと学習を積み重ねられるよう工夫されている。 ○「学習のめあて」「できたかな」「ふり返ろう」が記載され、学習の内容を確かめながら習得できるようになっている。 ○活動や実践における基礎的な内容や実習の手順が、写真や図を使ってわかりやすく示されている。実習の手順は、活動をイメージしやすいように写真や図が配置されている。巻末に大きな写真とともに用具の使い方が示されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○題材の始めに「なぜ～するのだろうか」等の問いかけがあり、日頃の生活の中に課題を見つけ解決していけるよう構成されている。 ○全ての題材が「見つける・気づく」「わかる・できる」「生かす・深める」の3つのプロセスで構成され、児童が主体的に考え課題を解決していけるようになっている。 ○「調べよう」「話し合おう」「考えよう」「まとめよう」という課題の投げかけにより、児童が関心をもち、自ら課題を見つけ、考え、表現できるようになっている。ワークシートが記載されているものもあり、思考や表現の手助けになる。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭科の学習に取り組む際に必要な「生活の見方・考え方」の4つの視点を示し、各題材がどの視点の学習につながるのかを意識して学習できるようになっている。 ○「レットトライ 生活の課題と実践」では、家庭や地域、学校で実践する際の流れがステップで示され、児童が見通しをもって効果的な実践をしていけるようになっている。 <p><実践的・体験的な活動の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○題材の最後には「振り返ろう」「生活に生かそう」が設定され、学習を振り返りどのように生かしてみたいかを記述できるようになっている。 ○「チャレンジコーナー」を設定し、学習したことを家庭実践につなげられるよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○題材の導入に大きな写真や絵が配置されており、興味関心を引き出したり、ねらいを印象付けたりする工夫がされている。 ○後ろ折込のページや裏表紙には、家庭科学習でよく使われる用語、調理用具の名前、調理に必要な技能の名前等が収載されていて、知識の習得や家庭での実践に生かせる。 ○様々な職業の人や人生の先輩からのメッセージ等、キャリア教育の視点に立った資料が掲載されている。日本の伝統文化とつながる資料も掲載されている。 ○「QRコード」により実習に必要な技能が動画で確認できるようになっている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○文字の色がはっきりしていて、書体も見やすい。キーワードは太字で表記されている。 ○「安全」「環境」「参考」「関連」など、学習に関連する様々な内容をマークで表記し、学習内容へ効果的に関連付けている。 ○大題材のタイトルが5年生と6年生で色分けされたり、「家族・家庭生活」「食生活」「住生活」「消費生活・環境」の内容ごとに色分けしたつめ見出しがつけられている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「生活の見方・考え方 4つの視点」が示され、「生活」から課題を発見し、解決していくという構成になっている。キャラクターが児童に投げかける形で、題材がどの視点につながるかを意識しながら学習を進められるようになっている。 ○各題材が課題解決のための3つのプロセスに沿って学習が進むように構成され、児童が知識技能を生かし主体的に考え工夫していけるようにしている。 ○簡単なものから積み重ねていけるような配列の工夫がされている。スモールステップで学習が進むように題材が細かく分けて配列されている。 	

種目【保健】

項目	書名 新しい保健	2 東 書
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1 単位時間の学習が、見開き1 ページ以上にわたって記載されており、1 ページ当たりの情報量も多くなるよう工夫されている。 ○本文で端的にまとめられている、各時間の最後や単元末には、知識・理解の振り返りや確認のための問題があり、知識の定着が図られている。 <p><思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1 単位時間の終末部において、ガイドキャラが「次時の学習につながる疑問」を投げかけており、つながりのある学習となるよう工夫されている。 ○学習しながら教科書に答えや考えを書き込んでいくスタイルで、自分の考えをすぐに表現できるようになっている。 ○各項に「ステップ1」～「ステップ4」の学習活動を設定し、それぞれのステップに応じて、思考力・判断力・表現力を育成することができるようになっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○章末の「学習をふり返ろう」では、各章の自分の理解の程度を振り返るとともに、新たな興味や疑問を書くことで、学習内容をこれからの実生活につなげるよう工夫がされている。 ○単元の最初に目標と、各項で何を行うかが記載されている。単元全体の見通しが持ちやすいように工夫されている。 <p><健康・安全についての理解を深めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ステップ4 まとめる・生かす」が、一単位時間のまとめのページとして用意されており、各単元で得た知識・技能を実生活で生かすことを促すよう工夫がされている。 ○3年ではP.17 で実験、5年ではP.16 やP.44 で実習が設けられており、学習したことを実践的に理解できるようになっている。また、その時の記録も教科書に書き込めるようになっている。 <p><生涯にわたって健康を保持増進する資質や能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○運動と健康との関連について、資料「毎日の生活に運動を取り入れよう」が用意されており、具体的な運動場面を想起させながら、運動と健康の関連性を指導できるよう、工夫されている。 ○4年P.42～43 では、毎日の生活に取り入れる運動を「資料」の中で、多数取り扱っている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○思考を助け、学習意欲を喚起するよう、写真資料の種類・大きさ・配置などが工夫されている。 ○図・表の大きさや形式が書き込みやすいように工夫されており、配列も思考の流れに沿ったものとなるよう工夫されている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○「まめちしき」欄、「けんさく」欄、「資料」欄等、様々な脚注・注釈が豊富に各ページに記されている。 ○各項目の内容を、4 ステップ構成で統一されており、児童が見通しを持ちやすい。学習活動が枠で囲まれており、学習場面と本文が明確に区別されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○1 単位時間の学習の流れ「ステップ1 気づく・見つける」「ステップ2 調べる・解決する」「ステップ3 深める・伝える」「ステップ4 まとめる・生かす」が明確となるよう、内容等が工夫されている。 ○学習した内容を書き込める欄がたくさんあり、教科書とワークシートの機能を兼ねている。 ○イラスト・写真・デジタルコンテンツが充実しており、健康・安全についての理解を深める工夫がされている。 	

種目【保健】

書名 項目	<h1>たのしい保健</h1>	$\frac{4}{\text{大日本}}$
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○多くのページに知識・技能の習得を促す「しりょう」欄が設けてあり、平易な言葉で説明し、理解しやすいよう工夫されている。 ○各章の最後に、知識の定着の度合いを確認するためのページが設けてあり、学習した内容が振り返れるよう工夫されている。 ○見開きごとに基本的な知識がまとめてある。各ページの下部「ミニちしき」のコーナーがあり、本文の内容の補助となっている。 <p><思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○5・6年では、学習を始めるにあたって「調べ学習の進め方」「話し合い活動の進め方」が掲載されており、よりよい学び方が身につくよう工夫されている。 ○友達と話し合ったり教科書に記入したりすることで、自分の言葉として表し、表現力が育成されるように配慮されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元の導入ページにある「わたしたちはどこかな」の学習を通して、自らの生活体験を想起した導入になるよう工夫されている。 ○各学年の単元始まりのページには、学習者と同年齢の写真が大きく掲載されており、自分と重ね合わせながら、学習が始められるよう工夫されている。 ○章のはじめに「学習ゲーム」が設定されていて、児童がゲームを行うことで自然と学習の課題に気づき、意欲的に取り組めるようにしている。 <p><健康・安全についての理解を深めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○6年「たばこの害と健康」「飲酒の害と健康」では、終末部に「断り方」の学習が掲載してあり、自己の健康を守るための実践的な理解につながるよう工夫されている。 ○5年「犯罪被害から身を守る」では、危険の予測と安全な行動に関わる学習活動が掲載してあり、犯罪から身を守るための実践的な理解ができるよう工夫されている。 <p><生涯にわたって健康を保持増進する資質や能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○運動と健康との関わりについて、体ほぐしの運動が紹介されており、運動領域との関連性が図られるよう工夫されている。 ○小中連携を意識し、発展的な学習内容について中学校で学習することが示してある。 ○3年「毎日の生活とけんこう」では、図や写真を用いて運動と健康の関係を示している。章末には簡単な運動を紹介していて、内容を補完している。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○資料は他社と比較すると、少なめであるが必要なものに厳選されている。 ○本文のページの資料で足りない分は「しりょう」や「もっと知りたい」で補充してある。 	
表 記・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○文章量や情報量を精査し、ページ内に余白・空白が確保され見やすくなるよう工夫されている。 ○全面的にユニバーサルデザインフォントを使用している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○1単位時間の学習が概ね見開き1ページに集約されており、学習の流れが分かりやすいよう工夫されている。 ○学習ゲームで意欲を喚起することで基礎的・基本的な学習内容を理解できるよう工夫されている。 	

種目【保健】

項目	書名	207 文教社
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○文章での説明が多く、各ページの情報量が充実しており、十分に知識・技能が習得できるよう工夫されている。</p> <p><思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫> ○各学年の単元の導入には、「チェックリスト」「ブレインストーミング」など、単元の特徴に応じた学習内容が用意されており、課題意識がもてるよう工夫されている。 ○学習を導くキャラクターにより、課題の解決に結びつくヒントやポイントを提示している。児童の思考を促そうとしている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○各単元の終末部に「わたしの〇〇宣言」のページがあり、楽しく明るい生活を営む態度を養うよう工夫がされている。 ○自ら課題を見つけ、これからの学習を見通せる「動機付け」を各単元の始まりに配置してある。 ○学習者とキャラクターが身近な雰囲気在学习中することで、より自分のこととして内容を身につけていけるよう意識している。</p> <p><健康・安全についての理解を深めるための工夫> ○「新しい自分にレベルアップ」の欄が、1 単位時間の終末部に掲載されており、健康・安全について基礎的・基本的な内容が、実践的な理解につながるよう工夫されている。 ○「もっとくわしく」「もっと知りたい」のコーナーを設けることにより、子供たち自身が興味をもって深く学習内容にふれられるよう構成されている。</p> <p><生涯にわたって健康を保持増進する資質や能力を育成するための工夫> ○4年「体の発育・発達」の学習では、「年齢と新体力テストの記録」「生活習慣と新体力テスト合計点の関連」が掲載されており、運動と健康の関連について具体的な考えがもてるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○3年「体のせいけつ」では、多くの活動事例が写真で掲載されており、興味関心が高まるよう工夫されている。</p> <p>○6年「病気の予防」では、「ウィルスの写真」や「体内の臓器の写真」などが適切に掲載されており、必要な知識が確実に習得できるよう、工夫されている。</p>	
表 記 ・ 表 現	<p>○各ページの「まとめ」の文章が「クリーム色の囲み」で表記され、目立つように工夫されている。</p> <p>○文章表現を補完するためのイラストが充実しており、視覚的に理解が深まるよう工夫されている。</p> <p>○当該学年の漢字について、当該学年までに配当された漢字を使用している。配当漢字以外でも一般的に読ませたい漢字に関しては、ルビを振って表記してある。</p>	
総 括	<p>○登場人物「男の子」「女の子」「保健の先生」の三者が会話をする形で、1 時間の学習が展開されており、児童が本文を読み進めやすいよう工夫されている。</p> <p>○各ページとも、余すところなく情報が載っており、児童にとって読みごたえがある紙面構成となるよう工夫されている。</p> <p>○文字は他社に比べると小さめである。全体的にイラストが多い分、文字の配置が詰まっている。</p> <p>○学習過程に順序性をもたせることにより、経験の浅い教員にも取り扱いがしやすい構成になっている。</p>	

種目【保健】

項目	書名 小学保健	208 光文
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○各学年の単元終末部において「学習のまとめ」のページが用意されており、知識・技能を確実に習得できるよう工夫されている。 ○教科書の紙面にQRコードが掲載されている。文字や写真だけではわかりづらい内容を、動画で視覚的に理解することができる。</p> <p><思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫> ○1単位時間の導入で「はじめに」の欄が設けてあり、課題意識をもって学習が展開されるよう工夫されている。 ○各単元とも、1単位時間の中に「調べよう」「話し合おう」「考えよう」という活動を多く取り入れており、思考力等を育成するための工夫がなされている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○1単位時間のまとめにおいて「学んだことを生かそう 伝えよう」の欄が設けてあり、学んだことが楽しく明るい実生活につながるよう工夫されている。 ○児童の思考に寄り添った疑問や課題解決に結びつくヒントなどを、キャラクターを通じて提示してある。 ○毎時間の導入で、児童が学習内容を自分のこととして捉えられる問いが設定されている。学習と自分の生活を結び付けてイメージできるように工夫されている。</p> <p><健康・安全についての理解を深めるための工夫> ○5年「不安や悩み等への対処」では、深呼吸の方法やストレスマネジメントの方法などが掲載されており、健康・安全について実践的な理解が促されるよう工夫されている。</p> <p><生涯にわたって健康を保持増進する資質や能力を育成するための工夫> ○発展的な学習内容の中でも、中学校での取り扱いがあるものについては「保健体育・中学校」と記されており、児童にとって学習の接続が分かりやすいよう、工夫されている。 ○3・4年生では、授業で扱うページやコラムに、運動に関する内容やイラストを多数取り入れ、運動の重要性を意識させている。</p>	
資 料	<p>○3・4年、5・6年とも、最初のページにアスリートからのメッセージが掲載されており、学習への意欲付けが工夫されている。 ○本文とは別に資料ページ「さらに広げよう深めよう」を設け、学習内容のまとめりごとに、発展的な資料が掲載されている。</p>	
表 記 ・ 表 現	<p>○「科学のとびら」「この人に聞く」「まめちしき」など、基礎的・基本的な内容を補完し、発展的な学習を促す情報が多く掲載されるよう工夫されている。 ○イラストが多く使われ、視覚的に学習内容の理解を促すよう、工夫されている。 ○A4サイズなので、文字やイラスト・写真が見やすく配置されている。</p>	
総 括	<p>○1単位時間が「はじめに」「調べよう」「考えよう」「話し合おう」「生かそう伝えよう」などの学習活動がはっきり明示されており、学習の見通しがもてるよう工夫されている。 ○1単位時間が概ね見開き1ページで構成されており、児童の思考の流れがスムーズになるよう工夫されている。 ○各単元の初めに、ストーリー形式のイラストと会話を配置することで、基礎的・基本的な学習の内容を理解できるよう工夫されている。</p>	

種目【保健】

書名 項目	みんなの保健	224 学研
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「もっと知りたい・調べたい」のページが、各単元に豊富に掲載されており、知識や技能が十分に習得できるよう、工夫されている。 ○確実に習得させたい内容については、本文で示し、健康・安全についての基礎的・基本的な内容をしっかりと習得できるようになっている。 <p><思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各ページとも「考える・調べる」学習活動が紙面の多くを占めており、思考力などを育成できる授業展開となるよう工夫されている。 ○各時間「まとめる・深める」では、身につけた知識を基に、自己の課題を見つけ、その解決に向けて・思考力・判断力・表現力を養うことができるようにしている。 ○「友達」マークがついており、話し合ったり考えたりする場面が設けられている。意図的に友達と関わりながら学習する場面が多く取り入れてあり、主体的・対話的に学べるよう工夫がされている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1単位時間のまとめにおいて「まとめる 深める」の欄が設けてあり、本時で学習したことを、楽しく明るい生活を営む態度につながるよう工夫されている。 ○各単元の最初のページに、児童と同年齢の写真が中心に掲載されており、自分事としてスムーズに学習に入れるよう工夫されている。 <p><健康・安全についての理解を深めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○チェックリストが豊富に用意され自己の生活を振り返ることができるよう工夫されている。 ○「技能」や「実習」マークがついていることにより、獲得した知識・技能を実践的に理解する場面が、明確に示されている。随所に、実習や実験ができる場面が設けてある。 <p><生涯にわたって健康を保持増進する資質や能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○発展的な学習において、中学校での学習対象の内容については、その旨の明記があり、中学校との接続が児童にとって分かりやすいよう工夫されている。 ○5年、体と心のリラックスについての運動、3年 P.9、4年 P.32 では、運動の紹介がされていて「関連」マークで、体育とのつながりが明記されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○グラフ等の資料は最新のものが取り上げられている。写真は資料性が高い。 ○科学的な資料を取り上げた「かがくの目」を随所に設け、科学的な理解・認識ができるように工夫している。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○「つかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」の学習段階がしっかりと明示されており、1単位時間の展開が分かりやすいよう工夫されている。 ○写真資料やイラストが豊富に使われており、知識・技能を視覚的にわかりやすく習得を促すよう工夫されている。 ○大きな判型を採用し、視覚的にゆったりとした紙面になっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○保健学習の進め方が明記され見通しをもって学習に向かうことができるように工夫されている。 ○1時間の学習過程が見開き2ページに掲載されている。他の内容との関連や実習なども多数取り入れてあり、児童が主体的・対話的で深い学びが実現できるように構成されている。 ○各単元の初めに身近な写真を配置することで、自らの生活を振り返り、実践的に基礎的・基本的な学習内容を理解できるように構成が工夫されている。 	

種目【英語】

書名 項目	NEW HORIZON Elementary English Course	2 東書
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1つの単元が、「音に出会う」→「会話に慣れる」→「コミュニケーションを楽しむ」の3つのステップで構成されており、十分に「聞く」活動を行い、慣れ親しんでから言語活動に入るような設定になっている。 ○脚注があり、Picture Dictionary を見て、児童が進んで学習し、単語の定着を図れるような工夫がある。 ○ところどころに単語の意味を補足する絵が吹き出しでかいてあり、低位の児童にとっても学びやすい工夫がある。 ○各単元最後の「世界を広げる」では、その単元と同じテーマを身近なことや他教科とに関連づけた情報が、豊富な写真とともに掲載され、リアルな世界に触れることができる。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○4技能のかわいらしいキャラクターやアイコンで目標が伝わりやすい。 ○各 Unit の初めに、内容に一致した歌とチャンツがあり、基本表現のリズムやイントネーションに慣れ親しんでから、言語活動に入る工夫がある。 ○絵や写真で場面の設定が分かりやすく、必要性をもって、言語材料を使う場面が繰り返し登場する工夫がある。 ○身近な事柄を題材として取り上げているので、主体的に言語活動を行うことができるようになっている。 ○毎時間にスモールトークが入っていて、既習表現を使って、思考力、表現力を高めることができる。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○親しみやすい絵で、児童と同世代のキャラクターたちの日常生活を描いたドラマ仕立てのストーリーによって、関心意欲を高めている。 ○Picture Dictionary に CAN-DO リストがあり、「何ができるようになるのか」が分かるようになっていて、つまづいたときに振り返ることができる。 ○環境や障がい者スポーツや食糧の輸入などについて触れ、外国について紹介するたくさんの写真があり、異文化を理解することができる。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと〔やりとり〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Picture Dictionary や多くの QR コードがあり、いつでもどこでも、児童が主体的に学ぶことができる工夫がある。 ○基本表現の文では、主語や動詞などに色が付いていて、文の構成が分かるようになっている。日本語との違いに気づきやすい。 ○文字を書く活動では、4線に書かせる配慮がある。書く活動にスムーズに取り組める工夫がある。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書がA4版で大きく、読みやすいし、書き込みもしやすい。 ○巻末のカードは厚紙になっていて使いやすい。また、切り取り線で切り離しができる。 ○巻末にワークがついていて、追加でワークシートを用意する必要がない。また、ワークの部分は鉛筆で書きやすい用紙をつかっている。 ○小型で携帯しやすい Picture Dictionary がついており、授業中の活動や自主学習で使うことができ、便利である。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○新ユニバーサルデザイン書体で、読みやすく書きやすい。そのまままねして書けるようになっている。 ○4線ノートの幅に工夫がある。1階が広がっていることで、文字の形や高さを区別しやすくなっている。 ○重要な文字や文のどこを使って、何を変えていくのかに対して色を変えている工夫が見える。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習の流れが明確で、1つの活動にもスモールステップが示されていて、教師にも児童にも学びやすく教師にとっても指導しやすい。 ○豊富な写真資料などによって世界に目を向け、意欲をもって学べる作りになっている。 ○QRコードやURLが多くあり、教員も児童もたくさんの音声や映像を必要に応じて使うことができる。工夫して使うことで深く学ぶことができる。 	

種目【英語】

書名 項目	<h1>Junior Sunshine</h1>	9 開隆堂
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○導入「Let's listen」から終末「Let's try」までの段階的に学んでいける構成となっている。導入で課のゴールを見通せるリスニング活動が設定されている。その後ターゲットになる英語表現を段階的に繰り返し学習し、それらを駆使して無理なく終末のアウトプット（自己表現活動）に臨めるように各課が構成されている。 ○開きやすい巻末に「ローマ字表」「アルファベット」を配置することで、児童が読み書きする際にすぐに参照できるように配慮されている。 ○QRコードによって、実際の音声を繰り返し聞きながら家庭学習にも生かせる。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○他教科との横断的な学習が多く設定されている。該当箇所には教科マーク付されており一目で他教科との関連が分かるようになっている。（社会科をはじめ、国語、図工等の活動） ○道案内を題材とした課では、プログラミング的思考を育成する活動が設けられている。 ○自分の将来「職業なりきり自己紹介」や「なりたい職業につくための時間割」など自己肯定感を高めたり、他者を認めたりする意識を養う活動がある。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○他教科との関連、横断的活動を取り入れている。教科マークで示してある。（国語・社会・図工・家庭科・理科等） ○自国の郷土を尊重し、他国尊重・国際社会に寄与する意識を育てる構成になっている。（「自分の町紹介」「世界の衣食住」など） ○「特別の教科 道徳」との関連を図り、親切・友情・公平・伝統文化・国際理解等、道徳的価値に迫る題材や活動が全課にわたって意識的に配置されている。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○意味のある生きたコミュニケーションを重視し、文法指導中心にならないよう配慮してある。新出の英語表現は使う必然性を持たせ児童がやりとりしたいと思える活動を通して無理なく身につく工夫がある。 ○教科書後半に「文字になれよう」というコーナーを設け、「音と文字の関係」「アルファベット、文の書き方」などを段階的かつ系統的に学習できるようになっている。書くことを意識して、消しゴムで消しやすい用紙になっている。1時間分を3項目に分けているので短時間学習（モジュール）にも対応している。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○実生活、世界の行事等には鮮明な写真が取り入れてある。 ○児童の日常生活に密着した題材を扱い、場面シラバス構成で文法指導中心とならないように配慮してある。 ○「学んだことリスト」「自律的ふり返し」の欄がありふり返しによい。 ○巻末カード集は、厚紙でできており、使いやすい。 ○教科書冒頭に「CAN-DO マップ」が見開きで配置され、学年のはじめに児童が各課でどのような活動に取り組み、どのような能力が身に付けられるようになるのかが明示されている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○カラーユニバーサルデザイン、特別支援の観点から十分に配慮がなされ、識別しづらい色遣いは避け、すべての児童が無理なく学びやすい紙面づくりになっている。 ○「読む」「書く」ことに慣れ親しむことができるよう、手書きの文字に近い書体を開発・採用している。 ○英語の4線の幅を4：5：4とし、小文字を表記しやすくしている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○ペアやグループで行う活動を数多く設定している。児童同士が教え合い学び合う中で生きたコミュニケーション活動が行えるよう配慮されている。 ○小・中連携の観点から、「中学校へつなげよう」という特設コーナーがあり、音と文字の関係や英語で書くときの基本的なルールを段階的かつ系統的に本課と並行して丁寧に学習することができるようになっている。 	

種目【英語】

書名 項目	JUNIOR TOTAL ENGLISH	11 学図
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○繰り返し「聞く」活動、繰り返し口ずさむ活動、インプットを重視した構成になっている。 (歌、Let's listen、ナレーション入り3コマ絵など) ○目標表現の繰り返し学習 (チャンツ) ○読み書きドリルの充実 (「Sounds&Letters」、ページ横にアルファベット&イラスト) ○目標と振り返り→学習内容の把握と確認が1課ごとにまとまってできる。 ○自学習のページの充実 (QRコードによって、実際の音声を繰り返し聞きながら家庭学習 (ドリル) にも生かせる。) <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○等身大の子どもたちの日常生活のストーリーを使って、そこに自分を投影しやすいので「英語を使ってみたい」という気持ちにさせる工夫がある。 ○レッスンで学んだことを使ったアクティビティーを通して学びをふり返り表現力を磨くことができる「Use&Check」がある。 ○年2回の「ProjectTime」では、既習知識を用いて、自分のこと、例えば地域のよさ、他国のよさ、小学校の思い出などを発表用シートに書いて発表するという活動がある。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1課ごとに、その課に関わる日本語コラムが掲載されている。⇒異文化理解、郷土愛へのつながり ○横断的な活動・現代的なテーマで英語を使うように工夫している。 ○Shaggy's story が各単元末にあり、イギリスの生活について物語と通じて知ることができるとともに、単元で学習した表現の確認や文字への気付きができるように工夫されている。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと〔やりとり〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○主体的対話的なアクティビティーの設定がある。 ○ペア・グループで多様なアクティビティーを通して交流できる。 ○Small Talk に対応しており、児童同士のやり取りがしやすいように例文が提示してある。 ○「Project Time」(学年2回)の発表を聞き合うことで表現することの意欲を持たせられる。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○児童に親しみやすいイラスト・アニメ風の挿絵が豊富にある。 ○巻頭に豊富な資料がある。(クラスルームイングリッシュ・目標・学習の進め方など) ○巻末の資料が充実している。(復習資料・Word list、Song、ローマ字表など) ○アルファベットコーナー (年10回ドリル) やUse&Check 5:6:5の4線・Project Timeシート (厚紙) ドリル (15分モジュール対応) がある。 ○日本語コラムやShaggy's story(英語読みもの)がある。 ○自学に活用できるQRコードによる繰り返し発音練習がある。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○カラーユニバーサルデザインを採用し、配色やイラスト、文字フォントなど特別支援的配慮がある。 ○挿絵は、マンガ・アニメタッチの親しみやすいイラストになっている。 ○A4版で使いやすく、多様な字体を採用している。 ○イラストアイコンマークにより、活動が一目ではっきりわかるようになっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○豊富な資料・ドリルなどの掲載により、自分のペースで繰り返し学習がしやすい。 ○英語力の基礎を十分に身に付けられるように、また、英語に慣れるように英語の文や表記が多く構成されている。 ○学習の流れが1課ごとに、課の始めに詳細に書かれており、見通しをもって学習に取り組んだり、現在地を確認したりできる。 ○多様な表現活動ができるようになっている。 ○とにかく繰り返し「聞く」「話す」の活動が、十分に設定されている。 ○絵や図、イラストも多いが、文字情報も多く、説明や例文など詳細な掲載が特徴的である。 	

種目【英語】

書名 項目	<h1>CROWN Jr.</h1>	15 三省堂
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○HOP→STEP→JUMPの3段階で1ユニット、各学年が3ユニットで構成されている。 HOP で目指す姿を把握し、STEP で音声から文字へ理解から表現の順で学んでいけるようになっている。また、STEP は、複数のレッスンで構成され、ペア・グループ活動から全体活動へとスモールステップで進む構成となっている。JUMP では実際の場面で自分のことや身近なことを表現することができる。</p> <p>○語彙や表現を増やすために「話す」「聞く」活動が中心となるが、「読む」「書く」活動にも徐々に慣れていけるよう各学習活動が配置されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○既習の表現を繰り返し聞いたり、話したりする、音声で学んだことを読んだり書いたりする、学んだ語彙や表現を実際に使う活動を行うなど、それぞれの活動が関連を持ち、「スパイラル」に言葉の力が育成されるよう構成されている。</p> <p>○児童が共感でき、ストーリー性のある話題が扱われており、そのことを言う「必然性」がある場面設定が意識的に構成されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○海外の話題で世界を広げるだけではなく、日本文化の発信に資する題材（日本、大発見）、児童自身の世界を広げる題材（実世界の英語）等も配置されている。</p> <p>○「特別の教科 道徳」とのクロスカリキュラムの観点から正義・自他の敬愛・社会への主体的な参画等の道徳的な価値づけを意識した題材も見受けられる。</p> <p>○JUMP には埼玉県で推奨されている「バックワードデザイン」の意図が見える。児童が単元のゴールを意識して、何をいつどうやって学習するかが明確になっていて、どの子も主体的に活動できるような工夫が見える。</p> <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫> ○単元の始めの見開きには「読む」「書く」を意識して、一つ一つの物・動作に文字が入っている。</p> <p>○「Enjoy listening」のようにコミュニケーションの基礎となる「聞く」活動を楽しみながら児童が取り組めるようになっている。</p> <p>○STEP の中に STORY が入っていて、なじみのある物語を英語で味わえるように扱われており、イラストと既習表現の吹き出しを助けとして児童が「聞き取れた」「読めた」と達成感が味わえるよう構成されている。</p> <p>○コミュニケーションにおいて重要な「あいづち・反応」についても書かれていて、ただの文の暗記練習にならないような工夫が見える。</p>	
資 料	<p>○各課のチャンツや巻末の Words&Phrases 等には二次元コード（QRコード）が付されており、語句や音声を聞くことができるようになっている。</p> <p>○自主的な学びができるよう、切り離して使える付録が豊富に用意されている。○英語を媒介として世界とつながっていけるよう、他文化を尊重する心を育む教材・資料が配置されている。（口絵 世界のまちかど等）</p> <p>○「世界の時差」は社会科との関連も意識できる。また、時差について「+」や「-」表記は児童にとってわかりやすい。</p>	
表 記 ・ 表 現	<p>○識別しにくい配色を避けて形や記号などの補助的な手がかりを設けるなど、すべての児童にとって分かりやすい紙面づくりとなっている。</p> <p>○児童の手本となる手書き文字フォントを開発・採用している。大文字・小文字ともに4線にきれいに乗るように表記されている。</p> <p>○どんな活動をするか一目で分かる、5領域を示すアイコンが付されている。</p>	
総 括	<p>○目標・見通し・ふりかえりという学びのプロセスを大切に、自分の気持ちや考えなどを伝え合う言語活動を柱として構成している。</p> <p>○書いたものを話すなど、複数技能を統合した活動を多く設定することで、基本的な英語の運用能力の向上を意図して活動が設定されている。</p> <p>○話し手、聞き手、書き手、読み手などを意識し、よりよいコミュニケーションを成立させるポイントが重視されている。特に5年生の【会話を続けるくふう】が特徴的であった。</p>	

種目【英語】

書名 項目	<h1>ONE WORLD Smiles</h1>	17 教出
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○どの単元も、映像を見て概要をとらえることから始まり、口慣らしをしてから発表ややり取りをする発信活動へつなげている。流れが一定で児童が学びやすい。 ○Say It Together ではチャンツを取り上げ、繰り返し表現に慣れることができる。 ○音声と文字の指導が丁寧にできるように工夫されている。無理なくアルファベットの音に触れることができる。 ○オリジナルチャンツ・絵本教材も豊富に用意されている。 ○QR コードによって、実際の音声を繰り返し聞きながら家庭学習にも生かせる <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○冒頭に学年の目標や「学習を見通すページ」があったり、単元の初めには吹き出しで目標が紹介されていたりして、児童が見通しをもって学ぶことができる。 ○各単元に Let's Think のコーナーがあり、問いかけがたくさんあり、言語や文化について考えさせたり気づかせたりする工夫がある。 ○「あこがれの人当てクイズ」など、予想してから質問したり伝える順番を考えて整理したりする活動がある。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○行ってみたい都道府県やオリジナルメニュー、オリンピック・パラリンピックの選手のテーマなどを取り上げ、他教科の学びが英語学習に生かせるようになっている。 ○巻頭の Let's Start Together では、前学年の語彙・表現をふり返ることができ、前向きに学習に取り組めるような工夫がある。 ○名物マップやシールなどがあり、児童がやってみたいと思えるような仕掛けになっていて興味をもって学べるような工夫がある。 ○世界 12 か国の小学生の写真や音声に掲載されていて、多様な文化や価値に触れることができる工夫がある。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと〔やりとり〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○表現を伝える相手を外国人の先生にするなど、英語を使う必要性がある設定になっている。 ○活動では、絵と吹き出しで何をやるのかがイメージしやすくなっている。聞き手のリアクションにも触れ、コミュニケーション活動を重視している。 ○「学びリンク」では、QR コードや URL からウェブサイトアクセスし、動画や音声を何度も視聴できるようになっている。 ○非難するときの英語や手話などが紹介されていて、実生活と結びついている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に CAN-DO (できるようになること) があり、ユニットごとのゴールを教科書に掲載していて学習の見通しが持てる。 ○巻末カードには、ミシン目がついておりはずしやすい。付録には絵辞典、ペンマンシップカード、活動シールなど豊富にある。 ○わかりやすい文例とワークシート(発表シート)がある。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○カラーユニバーサルデザインを採用していて、判断しやすい配色になっている。 ○文字はユニバーサルデザインフォントを使っていて、どんな子供にもわかりやすくなっている。 ○アイコンで活動のめあてが分かりやすくなっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の流れが一定で、見開き 1 ページで 1 時間の構成になっているので指導しやすい。 ○分かりやすいイラストと指示文があり、児童にとっても教員にとっても活動の内容がイメージしやすくなっている。 ○巻末に資料がたくさんあり、使いやすい。 ○世界の子供たちがたびたび登場し、世界を身近に感じながら英語を学ぶことができる。 	

種目【英語】

項目 書名	<h1>Here We Go!</h1>	38 光村
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「聞く」活動の前に「見る」活動が設定されていて、児童には段階的に言葉を理解しやすい単元構成になっている。「聞く」ための準備ができるようになっている。 ○英語の響きを味わいながら文化的な背景にも興味が持てる歌や絵本教材が豊富に盛り込まれている。また全ユニットにオリジナルチャンツが配されており、学習する基本表現を楽しく練習できるようになっている。 ○「アルファベットの由来」などが載っていて、児童にとっては小文字の学習の一助になるような工夫がある。暗記だけになるのではなく、考えながら知識を定着できるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○UnitにあるLet's tryやYou can do it!の活動は、グループ内でやりとりをしたり、グループで力を合わせて発表したりする活動となっている。一人では難しいことでも、助け合うことで英語で表現することの自信が培われるよう工夫されている。 ○思考力・判断力・表現力が、言葉を通して伝え合う中で培われるようになっている。活動では、予想してから質問したり、伝える順番を考えて整理したりする活動が多数用意されている。活動の話題は、学校や日常生活など親しみやすく、安心して活動できるものとなっている。(あこがれの人を当てるクイズ) <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「教科書の使い方」がわかりやすく書かれている。3段間の構成になっていること、目標がどこに書いてあるか、この教科書で使われているマークなど初めて外国語を学習するどの子も主体的に学習に取り組める工夫がある。 ○「世界の友達」コーナーでは、実際の写真が豊富に掲載され、世界12か国で実際に生活する小学生のメッセージを音声と映像で紹介し、多様な文化や価値観に触れられるようになっている。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に、コミュニケーションを円滑にする4つの大切として、「アイコンタクト」「スマイル」「クリアボイス」「レスポンス」を示している。各ユニットに「Response」コーナーが付されており、相づちや聞き返す表現が繰り返し示されており、相手意識が育つように構成されている。 ○各ユニットには、Sounds and lettersのコーナーが配され、楽しみながらアルファベットの音と文字の関係に少しずつ気付けるようになっている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が言いたい語や、これまで触れてきた語を探して使えるように、巻末に「絵辞典」が付されている。 ○水性ペンを用いて、文字を何度も書いて練習できる「ペンマンシップ・シート」が付されている。 ○音声や映像、リンク集など、学習を広げるウェブコンテンツが豊富に用意され、紙面に付された二次元コードを通して無償で利用できるようになっている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○当該学年の配当漢字には、すべて振り仮名が付されている。 ○判型については、横組の文字が読みやすく、紙面を視覚的に見せることができる横幅の広いA・B判が採用されている。 ○大判のイラストや、小さくしても分かりやすい写真を用いており、めりはりのある紙面構成となっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各Unitの導入Hop!には、「学習のめあて」をGoalとして示し、UnitのまとめのJump!には、「ふりかえろう」が設けられ、児童は3つの観点から学習を振り返ってCAN・DOシールを貼る、達成感を得ることができる。 ○道徳や国語をはじめ、他教科との関連が積極的に示され教科横断的な視点で学習が計画できるようになっている。 ○表現のための語彙と理解のための語彙の考え方が意識されており、中学年から慣れ親しんだ表現に、何度も触れられるように言語材料の工夫がされている。 ○中学校検定教科書や英検、CEFR-Jや国際的な基準等の語彙を分析し、教科書で触れる語彙を721語に設定し、特に重要な語彙や表現については繰り返し登場させている。 	

種目【英語】

書名 項目	<h1>Blue Sky elementary</h1>	61 啓林館
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○どのUnitも、「導入」→「インプット」→「アウトプット」→「振り返り」となっていて、音声から文字への流れで英語を習得できるようになっている。学習の流れが一定なので、児童が安心して学べる。 ○「インプット」では、チャンツがあり、表現を繰り返し聞いたり口にしたたりする工夫があり、定着を図っている。例文には、「・」でストレスが示され、日本語とのリズムの違いに気づきやすい。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末には、絵本が載っていて、絵を見ながら単語や文の意味を推測しながら物語を楽しむことができる。 ○3つのUnitごとにReviewがあり、提示された場面でどのような英語を使って伝えたいのかを児童が考えて表現する活動ができ、思考力や表現力を高めることができる。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末には、「Word List」があり、自分の言いたいことを英語でどのように言うのかを調べることができる。 ○外国の文化について紹介する内容が多くあり、異文化を理解することができる。 ○各ユニットに「Jingle」と「Chant」の活動があり、文章の一部を入れ替え、自分の思いを伝えられるような表記の工夫がある。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと〔やりとり〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各Unitのアウトプットの「書く」活動では、4線が書いてあって書く活動がしやすい。また、なぞり書きでスタートしたり、始めの位置に「・」があつたりと、取り組みやすい。 ○UnitのActivityでは、発表したりペアで会話したりする活動があり、表現する力を身につけることができる。 ○Unitの終わりの「振り返り」では、丁寧に「言いたいけど言えなかったこと」、「もっと知りたいと思ったこと」、「表現をどんな場面で使いたいかなどに触れ、思いとともに表現することを重要視している。 ○Unit末にあるLet's Read and Writeでは、活字体の大文字小文字の識別や、名前読みと音読みを丁寧に取り上げ、負担なく読みの活動につなげる工夫がある。 ○各Unitの扉には、Small Talkに使える絵のページがあり、既習事項を使ったやり取りやUnitへの導入ができるようになっている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QRコード・URLが各Unitに3つずつあり、家庭でも手軽に音声教材を使って、主体的に学習できるようになっている。 ○Unitの中のPart2・3では、Activityが設けてあり、ペアワークやグループワークができる工夫がある。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○Partごとに「めあて」が明記されていて、学びの見通しが持てるように配慮してある。 ○4技能5領域を示すマークがあり、活動のめあてが分かりやすい。 ○誰もが分かりやすいように、UD書体を用いている。 ○温かみのあるやさしい色使いでシンプルなデザインにし、必要な情報が伝わりやすいように工夫している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○Unitの構成が一定で、活動や演習はほぼ紙面の流れに沿って行えるので、児童にとっても学びやすいし、教師にとっても授業しやすい。 ○やわらかい色合いだったり、余計な情報がなかったりして、扱う表現に集中して学習できる。 ○文字にたくさん触れているので、文字が多い中学校教科書とのつながりを考えて構成されている。 	

種目【道徳科】

項目	書名 <h1 style="text-align: center;">新しい道徳</h1>	2 東書
内 容	<p><道徳科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○初めに、1 気づく、2 考える・話し合う 3 振り返る・見つめる 4 生かす、といった自己を見つめ、物事を多面的多角的に考え、自己の生き方について考えるための学習の流れをつかむためのページがある。 ○読み物教材だけでなく、イラストや写真から議論を深められるような活動型教材がある。 ○教材の冒頭に主題名が記載されている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○メディアで有名な人物が多く取り上げられ、児童の興味・関心を高めている。 ○「いじめ問題」を全学年で重点項目として取り上げている。いじめを題材として扱った直接的教材と、問題を提起する間接的教材を1つのユニットとして組み合わせることで、いじめ防止の効果を高めている。 ○「情報モラル」を扱った教材を全学年に配置し、発達段階に応じて段階的に指導ができるように工夫している。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○身近な生活場面（低学年）から様々な場面へと、各学年の発達段階に応じた教材となっている。 ○各学年で特に重要だと考えられる内容項目を「重要指導内容」とし、繰り返し指導し学習を深められるようになっている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材の終わりに「考えよう」が記載され、考えたり議論したりする観点があり、学習の流れが作られている。 ○低学年には教材の冒頭にキャラクターの吹き出しで考えるポイントを示している。中学年以降では、最後に「考えるステップ」を示し、話し合いの道筋を示している。 ○「活動型教材」があり、児童の多様な考えを引き出し議論できるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○目次に内容項目別一覧があり、価値項目がひとめでわかる。 ○タイトルが価値項目ごとに色分けされている。 ○漫画形式のものやイラスト、写真など様々な資料を活用した工夫がある。 ○Dマークなど、インターネットを活用して教材に関連した動画も見られる。 ○絵本作家のなじみの絵が多く、児童の興味を引き付ける。 ○巻末に毎時間の学習を振り返り自己評価できるページがある。また、学期ごとに振り返りシートがあり、児童が定期的に振り返れるようになっている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○昔からある読み物資料が、今風のイラストで仕上げられている。 ○どの学年も最後に児童の「学習の記録」や色塗りがある。 ○教材のタイトルに4つの視点のマークと学習のテーマを掲載している。目次のページが視点、内容項目別になっており、1年間の見通しがもてる。 ○教材名が太字で大きく表示されていて見やすい。 ○B5ワイドサイズ。そのため、文字がやや小さい。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○今風のイラストや写真・人物が取り上げられており、児童の興味をひく教材が多い。 ○キャラクターによる吹き出しや「考えよう」などの学習の手引は、発達段階に応じて表示のしかたを工夫している。 ○「出会う・ふれ合う」を設け、コミュニケーション活動を通して、道徳的価値について考えることができるように工夫されている。 ○Dマークの教材はQRコードを読み取ることで、教材内容と関連する動画を見ることができ、理解を深めることができるので効果的である。 	

種目【道徳科】

書名 項目	かがやけ みらい 小学校 道徳 きづき かがやけ みらい 小学校 道徳 まなび	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">11 学図</div>
内 容	<p><道徳科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「きづき」と「まなび」の二部構成となっている。「きづき」では、教材の中で道徳的課題に気づき、「まなび」では、内容項目別に記述できるようになっており、その内容を振り返ったり学びを深めたりできる。「自分の考え」と「友達の考え」を記述することで、友達との対話を通して学びを深められるようになっている。 <現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○昔からなじみのある教材が、現代風にアレンジされている。「すれ違い」→ラインの画面等。 ○「いじめ問題」を全学年で重点項目として取り上げ、複数配置している。 「ともにいきる」マークの教材を計画的に配列し、繰り返し多角的にいじめについて考え、学びを深められるよう工夫している。 ○「情報モラル」を扱った教材を全学年に配置し、発達段階に応じて段階的に指導ができるように工夫している。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が関心を向けやすい、漫画家やオリンピック選手などに関する教材が多く配置されている。 ○漫画となっている教材もあり、児童が読みやすく学べるようになっている。 ○内容項目の4つの観点を児童の生活実態や体験活動に合わせて、バランスよく教材を配列している。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「きづき」には本文に内容項目、主題、発問がないため、児童自らが問題に気付くことを大切にされた構成になっている。 ○「まなび」の「やってみよう」では、役割演技を行うことにより、道徳的価値について主体的に取り組めるような表現活動が示されている。また、「自分の考え」「友達の考え」を記入する欄があり、友達の意見と比較しながら自己の考えを深めることができる。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○写真や絵から課題を見出す教材、漫画形式の教材、身近な話題の教材など、さまざまな教材を配置している。 ○絵や写真が多く（特に低学年）見やすい。 ○全ての教材にQRコードがあり、主題名と登場人物が資料として活用できる。 	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○挿絵に水彩画が多く使われ、全体的に優しい感じがする。 ○縦が短く、横に広い本の大きさになっている。高学年でも多くの資料が見開き2ページで編集され見やすい。 ○高学年でも文字がやや大きく見やすい。 ○学年配当漢字については、全てふりがなをつけ、「読む」ことへの負担の軽減を図っている。 ○B5で幅広の製本となっている。教材が見開きで始まるように工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教材で考える「きづき」と道徳ノートの役割の「まなび」の二冊併用が特徴的である。 ○「きづき」には主題等がないため、教師の創意工夫が図りやすい。「まなび」は内容項目ごとにまとめられるようになっており、児童自身の考えの深まりを見取ることができる。 	

種目【道徳科】

書名 項目	小学道徳 はばたこう明日へ	17 教出
内 容	<p><道徳科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○初めに、気づく、考える、深める、つなげる、といった学習の流れをつかむためのページがある。 ○教材の冒頭にキャラクターによる問いかけの文章があり、学習のねらいを明確にしている。最後に「考えよう」「深めよう」という学びの手引きがあり、考え・議論しながら道徳的価値についての学びを深められる発問となっている。 ○教材の文末の学びの手引きに「やってみよう」「つなげよう」の項目があり、教材をより深めたり教材を通して考えたことを実践する意欲を高めたりしている。 ○内容項目でまとめた教材配列となっており、道徳的価値をより多面的・多角的に考えることができるようになっている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○いじめ問題や情報モラル、国際社会に関する学習が取り上げられている。 ○「いじめ問題」を全学年で重点項目として取り上げている。直接的な教材だけでなく集団や社会との関わりを考える教材でも間接的に扱い、さまざまな場面から考えを深めていけるようになっている。 ○全学年で「命」や「情報モラル」を取り上げ、詩やイラスト、写真など発達段階に応じた多様な教材で考えられるように工夫されている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の発達段階を踏まえて、大切にしたい内容項目の教材を「特に大切なこと」と設定してある。 ○発達段階に応じて取り上げる教材のタイプを工夫している。(物語教材→生活場面→人物の生き方) ○学習時期と教材内容の季節が一致するよう、教材が配列されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学年に「やってみよう」でモラルスキルトレーニングの教材があり、具体的な行動について体験しながら道徳的価値を学べるようになっている。 ○一部の教材で拡大導入のページが設けられており、児童自身が道徳的課題に気づき積極的に学習に取り組めるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○マスコミや他教科で取り上げられる人物の話が多く、児童の興味を高めている。 ○巻末に補充教材がある。 ○内容項目ごとにまとめた配列になっている。 ○道徳教育の中で長く読み継がれてきた定番教材が数多く掲載されている。 ○巻末に、「学びの記録」のページがあり、毎時間・学期ごと・一年間の振り返りができるようになっている。また、家庭との連携も図ることができる。 	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザインをうたっている。(色・デザイン) ○目次のマークで、自分のことなどの価値項目がわかりやすい。 ○行間が広く、見やすい。場面ごとに改行してあり分かりやすい。 ○内容項目や主題がやわらかい色で色分けされている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○発問が登場人物の心情に沿っているものが多い。 ○まなびリンクがあり、直接ではなく、他社のHPにとぶ。数は多く、教材として活用できそうである。 ○B5サイズでコンパクトである。教材を見開き2ページで収めようと工夫されている。 ○同じ内容項目の教材が複数続いた配列が特徴的である。 ○「導入」で、価値に迫るような問いかけをしたり、「考えよう」で主発問や振り返りの発問が提示されたりしていて、授業の流れが明確化されている。 	

種目【道徳科】

書名 項目	道徳 きみがいちばんひかるとき	38 光村
内 容	<p><道徳科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材の冒頭に、キャラクターによる呼びかけがあり、導入の役割をしている。教材末には「考えよう・話し合おう」という手引きがあり、道徳的価値の理解や自覚を深めたり自分に引き付けて考えるために話し合ったりするなどの発問がかかっている。 ○「つなげよう」では、教材を通して学んだことを自分の生き方に生かすような問いかけがあり、道徳的実践意欲や態度を育成させるような工夫がある。 ○全学年を通して、考え、話し合う観点が設けられ、道徳的価値の理解を深め、自分自身の生き方や生活につなげていけるようになっている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いじめ問題」「情報モラル」を全学年で扱い、「呼びかけ→教材→コラム」のユニットで課題にじっくり向き合えるようにしている。 ○1年を通していじめと関連の深い教材を配置し、児童がいじめを意識し続けることができるようにしてある。 ○「生命の尊さ」を重点項目とし、命をテーマとした教材が全学年3つずつ配置付けられている。 ○「情報モラル」や「人権」は、権利を数多く掲載している。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年間を3つのまとまりに分け、さらにまとまりごとに小さなテーマを設けた教材配列にすることで、ステップを踏みながら考えを深めることができるようになっている。 ○内容項目が各学年で網羅されており、各教材がどこに対応するかは教材冒頭のマークと主題で示されている。 ○低学年では、家族や学校生活など身近な教材が多く、主人公に寄り添って考えやすい内容になっている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が話し合えるような話し方のスキルやソーシャルスキルのページが設けられている。 ○児童の多様な考えを引き出すため、教材の文章をすっきりとさせている。 ○教材の最後に、「考えよう・話し合おう」といった話合いの観点が設けられている。「つなげよう」では、さらに考えを深める工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○国語の教科書と感じが似ている。 ○有名な絵本作家の絵など、子供を引き付けるようなイラストが多い。 ○写真、校歌、漫画など、様々な種類の教材がある。特に写真は折り込んだページを開くことができるようになっているものもあり、迫力ある画像で児童を引き付けるのに効果的。 ○「つなげよう」にQRコードがあり、朗読や動画が見られ、資料に関連したWebサイトに直接とべるようになっている。教材の理解を深めるのに役立つ。 ○「学びの記録」のページがあり、簡単な感想を毎時間記録することができる。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○色覚の特性にも対応できる表記（ルビや配色、表示）などがされている。 ○文字は他社よりも小さめだが、やや濃くて見やすい。 ○注釈で難解な語や必要な情報が解説されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○B5サイズのため、教材が数ページにまたがることが多い。また、一つのページを上下に分けてあるものもあり、児童によっては抵抗を感じる。 ○冒頭の主題名や主体的に学ぶ手引きが示されたりしており、順序だてて授業を組み立てられるように配慮されている。 ○見開きでインパクトがある教材が多いが、心情の読み取りが特活や国語的なものが多い。 	

種目【道徳科】

書名 項目	小学道徳 生きる力 道徳ノート	116 日文
内 容	<p><道徳科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○導入で学習の目的をつかんで、「考えてみよう」「見つめよう生かそう」を活用して道徳的価値の理解や道徳的実践意欲と態度を育成できるよう工夫している。 ○道徳ノートが別冊でついている。自由に記述できる欄があり、児童が自分の考えを整理したり、友達の意見や話合いの内容をメモしたりすることで、自分の考えがより深められるように工夫してある。 ○気づき、考えを深めるために、教材のはじめに導入の発問例や、最後にはねらいにせまるための発問例が記載されている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いじめ問題」を全学年で重点項目として取り上げている。学期に1回、年間3回、それぞれ「直接的教材・間接的教材・防止に関するコラム」を一つのユニットとして配置している。 ○「情報活用能力の育成」「情報モラルの習得」を重視している。低学年は情報の意味や影響を考えさせる教材、中学年以降で通信機器に関わった教材が配置されるなど、発達段階に応じた配慮がされている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に「どうとくのとびら」の欄があり、4つの大きな項目に分けて学習する教材や内容項目をまとめている。 ○1年生の教科書の目次は、イラストや写真で示してあり、興味・関心を高められるようになっている。 ○小1プロブレム解消の具体策で、特に1年生のオリエンが丁寧でわかりやすい。 ○先人の伝記やスポーツ選手に関わる教材を取り上げ、多様な生き方が紹介されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「心のベンチ」というページが全学年様々な場所に配置されている。道徳的価値をより深く、多面的・多角的に考えを広げ深められるようになっている。 ○道徳ノートを併用することで言語活動が充実し、多面的・多角的に考え、議論する授業が実現しやすい。記述するスペースもマス、行など発達段階に応じたものとなっており、工夫されている。 ○学びを活発にするために、学習の手引きがあり、授業の流れが見えやすい。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年複数の教材で「教科書デジタルコンテンツ」があり、教材に関連した動画や画像をWebサイト上で閲覧することができ、学習を深めることができる。 ○高学年もイラストや写真が多く、読みやすい。 ○教材最後の「見つめよう・生かそう」で考えるべき視点が見えている。 ○登場人物が教材のはじめに出ていて状況がわかりやすい。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の冒頭に条件・状況が記載されており、資料渡しがしやすい。 ○難しい言葉には、注釈があり、児童の教材の理解を助けている。 ○タイトルの前に主題が記載されている。 ○電子黒板・道徳ノートの紙面データなど、デジタル教材も充実している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「道徳ノート」が工夫されており、様々な活用方法が考えられる。フリースペースが使いやすい。学びを積み重ねることができる。 ○導入で資料渡しがしやすいよう、登場人物の顔やあらすじを示し、見通しがもてるように工夫されている。 	

種目【道徳科】

書名 項目	<h1>小学道徳 ゆたかな心</h1>	208 光文
内 容	<p>＜道徳科の目標に関わる工夫＞</p> <p>○主題と教材を通して考えたいことが、冒頭に示してある。また、余白にキャラクターによるつぶやきが記載されており、考えるポイントや大切な見方を示している。流れが明記してあるため授業展開しやすい。</p> <p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</p> <p>○「情報モラル」を全学年で扱っている。身近な教材やコラムをセットで配列し理解を深められるようになっている。</p> <p>○「いじめ問題」を全学年で扱い、直接的・間接的にいじめについて児童自身の問題としてとらえられるように教材を選定している。また、親しみやすいアニメキャラクターを採用している。</p> <p>＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</p> <p>○オリエンテーションのページが多く充実している。全学年同じ内容である。</p> <p>○各学年で特に考えたいこと（重点項目）を設定し、2～3時間続きのユニット教材として配列してある。複数の教材を通して価値に深く迫れるように工夫している。</p> <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</p> <p>○教材の末尾に「まとめる」「ひろげる」の文言が記載してあり、自分の生き方を見つめられるようになっている。「～しましょう。」など決意表明のような文言が多い。</p> <p>○教材の中に、考えたり振り返ったりするポイントを示すことで主体的に考えを深められるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○教科書の巻末に毎時間の振り返りのページを掲載している。1時間→1 学期→学年末と評価できる。</p> <p>○オリジナルの教材が多い。人物の生き方から学ぶ教材や実話に基づく教材、漫画やアニメの教材など、様々な教材が配置されている。</p> <p>○人が関わり合う資料では、はじめに登場人物のイラストが記載され、読みの理解の手助けをしている。</p> <p>○長年使われてきた資料が、「ふろく」として掲載されている。</p> <p>○「みんなでやってみよう」では、ソーシャルスキルトレーニングの内容が掲載されている。</p> <p>○巻末に「学びの足あと」についており、授業の記録ができるがスペースが設けてある。</p>	
表 記 表 現	<p>○一部の物語では、教材の冒頭に登場人物の絵が記載されており、資料渡しがしやすい。</p> <p>○難しい言葉には、余白に注釈があり、児童の教材の理解を助けている。</p> <p>○絵がさっぱりしており（漫画チックで軽い。人物の動きが分かりづらい。）</p> <p>また、包丁の絵など、一部道徳の教科書として不適切と感じられるものもある。</p> <p>○教材は縦書きだが、余白のキャラクターの言葉は横書きで表記されている。</p> <p>○教材名の前に内容項目の4つの視点をマークと色で表し、主題を明記している。</p>	
総 括	<p>○教材の冒頭や教材末、キャラクターなどの文言が多く記載されており、授業を進める手助けとなっている。</p> <p>○デジタル教科書やデジタル教材が充実している。朗読や関連した動画、心情円盤なども映像や音を活用し、児童がより理解を深められるように工夫してある。</p>	

種目【道徳科】

書名 項目	<h1>新・みんなの道徳</h1>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">224 学研</div>
内 容	<p><道徳科の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業の学び方を紹介するページから始まっていて、オリエンテーションとして使いやすい。 ○特定の価値観を押し付けず、児童の問題意識を大切にするため、冒頭に教材の主題名を記載していない。児童自らが課題に気付くことを大切に構成になっている。 ○文末に「考えよう」があり、考えを深める手立てがある。文言も、「大切にしたいものは何だろう。」「これまでに～したことはあるか。」など、自分に戻る問いかけになっており、工夫されている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いのちの教育」を最重点テーマとしており、全学年で「生命の尊さ」の教材を3点配列している。 ○全学年で「いのち」と「ともに生きる」というユニット教材があり、さまざまな内容項目から広い視野に立って学習することができる。 ○「情報モラル」を全学年で扱っている。内容も発達段階に即したものとなっている。 ○いじめ防止につながる教材が充実している。役割演技を通して考えるものなどもあり、他者とよりよく生きることについて多面的・多角的に考えられるように配置してある。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に自分のことを書くページ、巻末に1年間の学習の振り返りのページがあり、1年間の自分の成長を感じることができる。 ○オリエンテーションのページが発達段階に合わせて分かりやすく示されている。 ○重点テーマを「いのちの教育」として、全学年で発達段階に応じた教材を複数配置し、様々な観点から学べるよう工夫されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「深めよう」「つなげよう」「やってみよう」「広げよう」という学び方の特設ページがあり、物事を多面的・多角的に考えることができるよう工夫されている。 ○「考えよう」では、教材の中の視点と、自分を振り返るものの2つが挙げられている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○QRコードがあり、資料に関する画像や動画が見られたり、音声を聞けたりすることができる。教材の理解を深めるのに役立つ。 ○教材が見開きで始まるように工夫されている。写真や漫画、絵など様々な資料がある。絵や写真が美しい。 ○昔からの教材と新しい教材がバランスよく取り上げられている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○教材名が太く大きい。インパクトがある。 ○難しい言葉には、余白に注釈があり、児童の教材の理解を助けている。 ○A4サイズ。見開き2ページで収まるようになっている。 ○児童が分かりやすい表現で書かれている。余計な心情表現等がなく、児童が様々な考えを出せるよう工夫されている。 ○教材のタイトルに4つの視点のマークと学習のテーマを掲載している。目次のページが視点、内容項目別になっており、1年間の見通しがもてる。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「あすか」と「みらい」という二人のオリジナルキャラクターが1年生から6年生まで登場し、ともに成長していくよう設定されている。 ○主題名を設定せず、導入の問いかけの文もないので、児童が自ら課題を見出し話し合えるようになっている。授業をする上で使いやすい。 ○絵や写真が充実しており、児童の目線に立った資料である。児童が安心して、また、興味関心をもって取り組むことができる。 ○授業スタイルの提示がないので、教師が創意工夫して授業を考えることができる。 	

種目【道徳科】

書名 項目	みんなで考え、話し合う 小学生の道徳 自分を見つめ、考える 道徳ノート	232 廣あかつき
内 容	<p><道徳科の目標に関わる工夫></p> <p>○教材をもとに考える「どうとく」と、書くことを通して自分を見つめることができる「ノート」の2冊となっており、併用することで道徳的価値をより深く理解できるようになっている。</p> <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <p>○「いじめ問題」を全学年で取り上げている。</p> <p>○全学年共通の重点項目が設定されており、2時間連続で配置する「ユニット」にすることで指導の重点化を図るよう工夫されている。</p> <p>○「情報モラル」については、考えさせるというよりは知識を伝えるものが多い。</p> <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫></p> <p>○冒頭（教材タイトル脇）に導入に役立つ文言が記載されている。低学年では内容項目が記載されているが、中・高学年では児童が先読みしないよう、内容項目に触れないものもあり工夫されている。</p> <p>○2年生以降の学年にオリエンテーションのページがあり、発達段階に応じて分かりやすい表現で道徳の学習のイメージを示してある。しかし、文字のみでさっぱりしている。</p> <p>○いじめに関する教材について、1～4年生では、直接的ではなく慎重に取り扱っている。</p> <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <p>○教材文の文末に「考えよう・話し合おう」を配置し、考えたり話し合ったりする視点や道筋を示している。しかし、「学習の道すじ」はねらいそのものが表記されている。</p> <p>○別冊のノートは、内容項目別に自分を見つめ振り返るページと、授業ごとの「学習の記録」、「話し合い活動の記録」「体験活動の記録」「心に残っている授業の記録」のページと、さまざまな項目がある。</p>	
資 料	<p>○伝記や様々なジャンルで活躍する著名人など、人物教材が豊かである。</p> <p>○ノートとセットなので、厚さがある。</p> <p>○「考えよう・話し合おう」の中に「学習を広げる」を設け、道徳的価値についての考えが深められるように「工夫されている。</p> <p>○インターネットマークがある教材は、ホームページで関連する情報を見ることができる。</p>	
表 記 ・ 表 現	<p>○文字が小さい。教材名も小さく細く感じる。</p> <p>○難しい言葉には、余白に注釈があり、児童の教材の理解を助けている。</p> <p>○イラストのタッチが柔らかく、さっぱりとしている。</p> <p>○B5サイズ（AB版）</p>	
総 括	<p>○別冊のノートは同じ内容項目でまとまるように工夫されており、上手く活用することで道徳的価値をより深められるようになっている。</p> <p>○実際に起こった話や、名言などが多く取り上げられ、生き方の参考にできるようになっている。</p> <p>○学習の「道すじ」があり、話し合いがしやすくなっている。</p>	